

令和 8 年度

全学共通教育科目  
履修の手引

2026

大阪大学

# 目次

◆目次		(4) 追試験	18
◆はじめに	1	(5) レポート提出	18
◆全学共通教育科目を履修するにあたって必ずすること	2	(6) 成績	18
◆履修案内ページの閲覧方法について	3	(7) 成績結果の誤記入等に関する申立てについて	18
◆年間スケジュール	4	(8) グレード・ポイント・アベレージ (GPA) 制度 について	19
◆学年暦	5	(9) 大阪大学全学教育優秀賞について	19
1. 大阪大学における教育課程の概要			
(1) 大阪大学の教育課程の目的	6	5. 学習相談/サポートの体制について	20
(2) 共通教育のカリキュラム	6	6. 交通機関運休等の場合の授業の取扱について	21
(3) 共通教育の実施方法	7	7. 学生の諸手続について	
(4) 4学期制	7	(1) 届と願	23
(5) 授業時間・単位	7	(2) 修学等に関する事	23
(6) 共通教育の実施体制	8	(3) 「授業・試験欠席届」について	24
2. 授業科目			
(1) 教養教育系科目	9	(4) 証明書自動発行機に関する事	25
(2) 専門教育系科目	10	(5) 自転車通学(駐輪場)に関する事	25
(3) 国際性涵養教育系科目のうち、マルチリンガル 教育科目	10	(6) 身体障がい等に関する事	25
		(7) その他、学生生活に関する事	25
3. 履修手続			
(1) 履修登録の原則とルールについて	14	◆付 録	
(2) 履修登録の流れについて	15	1 全学共通教育科目に係る卒業要件単位数一覧表	26
(3) 履修登録を行うにあたって	15	2 全学共通教育科目 履修登録方法一覧表	28
4. 試験及び成績			
(1) 受験が認められない場合	16	3 全学共通教育科目 科目一覧表	30
(2) 筆記試験受験上の注意事項	16	4 学部毎 特定の科目に係る履修上の定め	50
(3) 不正行為と成績評価	17	5 1年次 履修計画表	54
		6 1年次 春～夏学期 履修希望科目控	55
		7 よくある質問	58

## はじめに

この「履修の手引」は、本学に入学したすべての学生が学修しなければならない「全学共通教育科目」とその履修方法及び履修手続等の全学部のみなさんに共通する事項について簡潔に説明したものです。

本学の授業科目は、主に「教養教育系科目」、「専門教育系科目」及び「国際性涵養教育系科目」の三本柱から構成されていますが、「全学共通教育科目」とは、

- 「教養教育系科目」の柱の中の「学問への扉」、「アドヴァンスト・セミナー」、「基盤教養教育科目」、「高度教養教育科目」のうち全学教育推進機構が開講するもの、「情報教育科目」及び「健康・スポーツ教育科目」
- 「専門教育系科目」の柱の中の「専門基礎教育科目」
- 「国際性涵養教育系科目」の柱の中の「マルチリンガル教育科目」

をまとめて指しています。

2025年度4月、全学共通教育科目のうち、「アドヴァンスト・セミナー」、「情報教育科目」および「健康・スポーツ教育科目」においてカリキュラムの改善を行いました。そのため、みなさんを含めて、2025年度以降の入学向けのカリキュラムは、これらの科目について2024年度以前のものとは異なりますので、十分ご注意ください。

この手引は、学生のみなさんが主として入学当初から2年次の夏学期にわたって学修することになっている「全学共通教育科目」について、適切な履修計画を立てるために作成されていますので、熟読し活用してください。本学における教育課程や全学共通教育のカリキュラムの具体的内容は、この手引のP.6以下において述べられています。また別に作成されている各科目のシラバス等も参考にしてください。

大学における学修は、高等学校までの勉強とはいくつかの点で異なります。第一に、大学の教育課程では、学生のみなさんの主体的な学修が重視され、授業時間も自分で組み立てるなど自ら学修することが課せられている点です。そして第二に、入学後の1、2年間の共通教育や専門基礎教育により学術の基本・基礎を築き、学部後年次でそれを深化・発展させるという点です。第三には、異質な価値観や文化・言語について学修し、人間としての幅を拓き、「教養」、「デザイン力」、「国際性」のすべてを兼ね備えた社会人として活躍するために教養と専門の裾野を広げ豊かにすることです。

学生のみなさんの主体的な学修を支援するために、本学は入学時の学部別履修指導や学科によるガイダンスを行い、ガイダンス担当教員やクラス担任教員が履修上の相談に対応しています。また、図書館は授業の予習・復習や主体的な学修のための環境を提供しています。この「履修の手引」、各科目のシラバス、あるいは各学部が作成した「学生便覧」などを熟読し、多種多様な授業科目から適切な科目を選択して、確実に履修手続を行ってください。

本学は学生のみなさんが入学時の初心を忘れず、主体的な学修を通じて人として社会人としての高度な教養を培うと共に、専門領域の学問の基礎を身に付け、将来の日本を担う深く豊かな教養を持った高度知識人となることを期待して止みません。

## 全学共通教育科目を履修するにあたって**必ずすること**

時期	行事等	必ずすること(全学共通教育科目関係)	チェック
合格者発表日	<b>「大学入学関係資料」の確認</b>	送付された資料に不足が無いか確認する。	<input type="checkbox"/>
3月中	<div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content;"> <p>学部別履修指導で履修計画の立て方についての説明はありますが、4月に入ると行事も多く、じっくり考える時間がありません。</p> <p><b>必ずこの時期に1年次に履修したい科目を考えておくようにしてください!</b></p>  </div>	「全学共通教育科目 履修の手引」の内容を確認する。	<input type="checkbox"/>
		全学教育推進機構HPの新生向ページにアクセスする。 <a href="https://www.celas.osaka-u.ac.jp/fresher/">https://www.celas.osaka-u.ac.jp/fresher/</a>	<input type="checkbox"/>
		履修案内動画(10分程度)を視聴し、全学共通教育科目の履修方法について理解する。	<input type="checkbox"/>
		1年次に履修したい科目を検討し、本冊子付録P.54「付録5 1年次履修計画表」に記入する。	<input type="checkbox"/>
		上記の履修計画に基づき、本冊子付録P.55「付録6 1年次 春～夏学期 履修希望科目控」に4月初旬の「履修希望(抽選)登録」時に登録する科目を控えておく。	<input type="checkbox"/>
4月1日(水)	<b>学部別履修指導</b> ※履修計画の立て方についての説明があります。		<input type="checkbox"/>
4月1日(水) ～ 4月6日(月) 12時まで	<b>履修希望(抽選)登録</b> ※春～夏学期、春学期、夏学期開講科目	「令和8年度入学当初の行事について」を参照し、学務情報システム(KOAN)から、履修を希望する科目を登録する。	<input type="checkbox"/>
4月2日(木)	<b>入学式</b>		
4月9日(木)	<b>履修希望(抽選)登録結果閲覧開始</b> (9日(木)9時～) ※春～夏学期、春学期、夏学期開講科目	履修が決定した科目をKOANで確認する。	<input type="checkbox"/>
	<b>履修追加(先着順)登録開始</b> (9日(木)11時～17日(金)13時) ※春～夏学期、春学期、夏学期開講科目	希望した科目が抽選に外れてしまった場合には、必要に応じて「履修追加(先着順)登録」期間中に、定員に空きのある別の科目を追加で登録する。 ※この期間を過ぎると履修登録できません。	<input type="checkbox"/>
4月10日(金)	<b>春～夏学期、春学期授業開始</b>	履修登録している科目の講義室についてKOANで確認する。 講義室の場所について全学教育推進機構HPから確認する。 <a href="https://www.celas.osaka-u.ac.jp/facilities/">https://www.celas.osaka-u.ac.jp/facilities/</a>	

大学では自分で履修する科目を選択し、科目の種類により所定の方法で履修登録を行う必要があります。ここでは、「大学入学関係資料」確認後から授業開始日までに、**全学共通教育科目を履修するために必ずしておかなければならないこと**をまとめています。右端のチェック欄も活用しながら、授業が始まるまでの準備を進めてください。

全学共通教育科目の履修などに関する重要な情報は、随時、全学教育推進機構HPに掲載します。重要な情報を見逃さないよう、こまめに確認してください。  
<https://www.celas.osaka-u.ac.jp/fresher/>



はじめての履修登録の疑問について学部の先輩に聞くことができます(任意参加)。詳しい時間と場所はこちらを確認してください。**※4月のみ開催**  
<https://www.celas.osaka-u.ac.jp/students/sempai/>



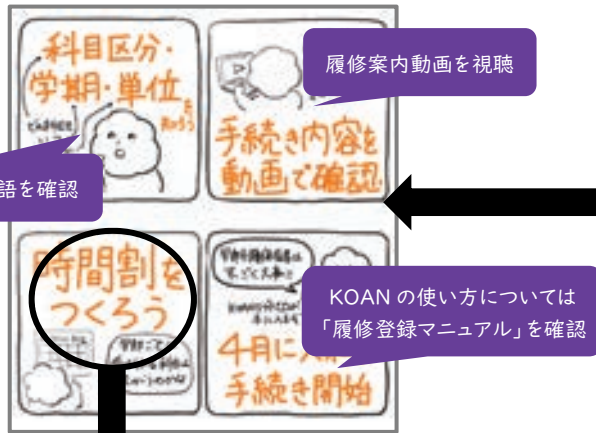
AIチャットボットでも履修登録がサポートします。全学教育推進機構HPから気軽に質問してみてください。  
<https://www.celas.osaka-u.ac.jp/education/>



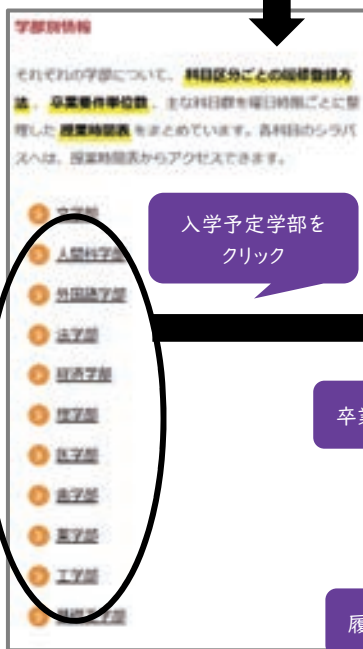
# 履修案内ページの閲覧方法について

## ① 新入生向けページ

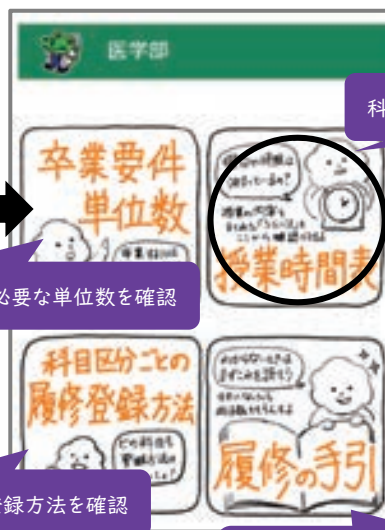
この冊子『履修の手引』の内容をよく読んで、全学共通教育科目のカリキュラムや履修方法について理解したら、全学教育推進機構 HP の新入生向けページにアクセスし、入学予定学部  
の履修案内ページ掲載の「卒業要件単位数」や「時間割表」、  
「シラバス」を参照しながら、履修したい科目を検討しましょう。



スクロールして  
学部別情報を表示



## ② 各学部の履修案内



## ③ 授業時間表

日	月	水	木	金
1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25
26	27	28	29	30
31				

クリックすると該当する科目区分の一覧が表示されます。時間割コードをクリックして、必ずシラバスを確認してください

令和8年度 全学共通教育 年間スケジュール

学期	期 日	行 事	
		セメスター科目スケジュール	ターム科目スケジュール
春学期	4月 1日(水)	新入生学部別履修指導・学生証交付	
		履修希望(抽選)登録 ※春～夏学期開講科目 (4月1日9時30分～4月6日12時)	履修希望(抽選)登録 ※春学期、夏学期開講科目 (4月1日9時30分～4月6日12時)
	2日(木)	入学式	
	3日(金)	新入生定期健康診断(4月3日、6日、7日)	
	9日(木)	履修希望(抽選)登録結果閲覧開始(4月9日9時)※春～夏学期開講科目	履修希望(抽選)登録結果閲覧開始(4月9日9時)※春学期、夏学期開講科目
		履修追加(先着順)登録 ※春～夏学期開講科目 (4月9日11時～4月17日13時)	履修追加(先着順)登録 ※春学期、夏学期開講科目 (4月9日11時～4月17日13時)
	10日(金)	春～夏学期授業開始(～9月30日) 5月8日は水曜日の振替授業実施日	春学期授業開始(～6月12日) 5月8日は水曜日の振替授業実施日
	22日(水)	履修取消期間 ※春～夏学期開講科目 (4月22日9時30分～4月28日16時30分)	履修取消期間 ※春学期開講科目 (4月22日9時30分～4月28日16時30分)
		いちょう祭準備	
	5月 1日(金) 2日(土) 3日(日)	} 大阪大学記念日(5月1日) いちょう祭(5月1日・2日) いちょう祭片付け	
	6月 8日(月) ～ 12日(金)		試験実施期間 ※春学期開講科目(6月8日～6月12日)
夏学期	6月 15日(月)		夏学期授業開始(6月15日～9月30日)
			変更登録期間 ※夏学期開講科目 (6月15日9時30分～6月22日16時30分)
	26日(金)		履修取消期間 ※夏学期開講科目 (6月26日9時30分～7月3日16時30分)
	8月 4日(火) ～ 10日(月)		試験実施期間 ※春～夏学期開講科目(8月4日～8月10日)
			試験実施期間 ※夏学期開講科目(8月4日～8月10日)
	11日(火)	夏季休業(～9月30日)	
	9月 1日(火) 2日(水)  25日(金)		成績閲覧開始 ※春～夏学期開講科目
			履修希望(抽選)登録 ※秋～冬学期開講科目 (9月2日9時30分～9月11日13時)
			履修希望(抽選)登録 ※秋学期、冬学期開講科目 (9月2日9時30分～9月11日13時)
			履修希望(抽選)登録結果閲覧開始(9月25日9時)※秋～冬学期開講科目
	履修追加(先着順)登録 ※秋～冬学期開講科目 (9月25日9時30分～10月8日13時)	履修追加(先着順)登録 ※秋学期、冬学期開講科目 (9月25日9時30分～10月8日13時)	
秋学期	10月 1日(木)	秋～冬学期授業開始(～3月31日) 10月16日、11月5日は月曜日の振替授業実施日	秋学期授業開始(～12月2日) 10月16日、11月5日は月曜日の振替授業実施日
		履修取消期間 ※秋～冬学期開講科目 (10月15日9時30分～10月21日16時30分)	履修取消期間 ※秋学期開講科目 (10月15日9時30分～10月21日16時30分)
	11月 31日(土) ～ 1日(日) 3日(火) 4日(水)	} 大学祭準備(授業休業) 大学祭(11月1日～3日) 大学祭後片付け(授業休業)	
	26日(木)		試験実施期間 ※秋学期開講科目 (11月26日～12月2日)
	12月 2日(水)		
冬学期	3日(木)		冬学期授業開始(12月3日～3月31日)
			変更登録期間 ※冬学期開講科目 (12月3日9時30分～12月9日16時30分)
	17日(木)		履修取消期間 ※冬学期開講科目 (12月17日9時30分～12月23日16時30分)
	1月 26日(土) ～ 3日(日)	} 冬季休業	
	2月 28日(木) ～8日(月)		試験実施期間 ※秋～冬学期開講科目 (1月28日、2月2日～3日、5日～8日)
		試験実施期間 ※冬学期開講科目 (1月28日、2月2日～3日、5日～8日)	
3月 1日(月) 2日(火)		成績閲覧開始 ※秋～冬学期開講科目	
		成績閲覧開始 ※秋学期、冬学期開講科目	
		在学生履修希望(抽選)登録開始(～17日13時)	

(注) 1. 授業開始日等、各学部の専門科目の日程と一致していないことがありますのでご注意ください。  
2. 共通テスト準備のための臨時休業日は1月15日を予定。

令和8年度 全学共通教育 学年暦

- 春学期  
授業開講期間
- 夏学期  
授業開講期間
- 秋学期  
授業開講期間
- 冬学期  
授業開講期間

- 数字 タム科目  
授業日
- 数字 タム科目  
試験日
- 数字 セメスター科目  
授業日
- 数字 セメスター科目  
試験日

2026年度	日	月	火	水	木	金	土
4月				新入生学部別 健康診断 全学共通教育科目 抽選登録	入学式 全学共通教育科目 抽選登録	学部新入生 健康診断 全学共通教育科目 抽選登録	全学共通 教育科目 抽選登録
	5	6	7	8	9	10	11
	12	①①	①①	①①	①①	②②	18
	19	②②	②②	②②	②②	③③	25
	26	③③	③③	昭和の日	いちょう祭 準備		
5月						いちょう祭 1	いちょう祭 2
		いちょう祭片付け 憲法記念日	みどりの日	こどもの日	振替休日	③③	③③
	3	4	5	6	7	8	9
	10	④④	④④	④④	④④	④④	16
	17	⑤⑤	⑤⑤	⑤⑤	⑤⑤	⑤⑤	23
	24	⑥⑥	⑥⑥	⑥⑥	⑥⑥	⑥⑥	30
31	5月 8日（金）は水曜日の振替授業日						
6月		⑦⑦	⑦⑦	⑦⑦	⑦⑦	⑦⑦	6
	7	⑧⑧	⑧⑧	⑧⑧	⑧⑧	⑧⑧	13
	14	①⑨	①⑨	①⑨	①⑨	①⑨	20
	21	②⑩	②⑩	②⑩	②⑩	②⑩	27
	28	③⑪	③⑪				
7月				③⑪	③⑪	③⑪	4
	5	④⑫	④⑫	④⑫	④⑫	④⑫	11
	12	⑤⑬	⑤⑬	⑤⑬	⑤⑬	⑤⑬	18
	19	海の日	⑥⑭	⑥⑭	⑥⑭	⑥⑭	25
	26	⑥⑭	⑦⑮	⑦⑮	⑦⑮	⑦⑮	31
8月							1
	2	⑦⑮	⑧⑯	⑧⑯	⑧⑯	⑧⑯	8
	9	⑧⑯	山の日	夏季一斉休業			15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					
9月			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	敬老の日	国民の休日	秋分の日			26
	27	28	29	30			

2026年度	日	月	火	水	木	金	土
10月					①①	①①	3
	4	①①	①①	①①	②②	②②	10
	11	スポーツの日	②②	②②	③③	②②	17
	18	③③	③③	③③	④④	③③	24
	25	④④	④④	④④	⑤⑤	④④	大学祭準備
							31
10月16日（金）は月曜日の振替授業日							
11月	1	大学祭	大学祭	大学祭 文化の日	大学祭片付け	⑤⑤	⑤⑤
	2	2	3	4	5	6	7
	8	⑥⑥	⑥⑥	⑥⑥	⑥⑥	⑥⑥	14
	15	⑦⑦	⑦⑦	⑦⑦	⑦⑦	⑦⑦	21
	22	勤労感謝の日	⑦⑦	⑦⑦	⑧⑧	⑧⑧	28
	29	⑧⑧					
11月 5日（木）は月曜日の振替授業日							
12月			⑧⑧	⑧⑧	①⑨	①⑨	5
	6	①⑨	①⑨	①⑨	②⑩	②⑩	12
	13	②⑩	②⑩	②⑩	③⑪	③⑪	19
	20	③⑪	③⑪	③⑪	④⑫	④⑫	26
	27	28	29	30	31		
2027年						元日	2
	3	④⑫	④⑫	④⑫	⑤⑬	⑤⑬	9
	10	成人の日	⑤⑬	⑤⑬	⑥⑭	試験準備	共通テスト
	17	共通テスト	⑤⑬	⑥⑭	⑥⑭	⑦⑮	⑥⑭
	24	⑥⑭	⑦⑮	⑦⑮	⑧⑯	⑦⑮	30
	31						
1月		⑦⑮	⑧⑯	⑧⑯		⑧⑯	6
	7	⑧⑯			建国記念の日		13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	天皇誕生日	24	25	26	27
	28						
2月							
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22					
	28						
3月							
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	春分の日	振替休日				
	28	29	30	31			

・・・・土・日・祝日及び休業日又は授業未実施期間を示す（緑字は祝日）。  
 ・・・・大学行事又は入試準備のための臨時の授業未実施日（予定）を示す。

※「共通テスト追試験」等の事情（対象大学や日程は未定）については考慮していない。実施対象大学となった場合、授業実施日の調整を要する場合がある。

春学期：4月 1日～6月14日    秋学期：10月1日～12月 2日  
 夏学期：6月15日～9月30日    冬学期：12月3日～ 3月31日

# 1. 大阪大学における教育課程の概要

## (1) 大阪大学の教育課程の目的

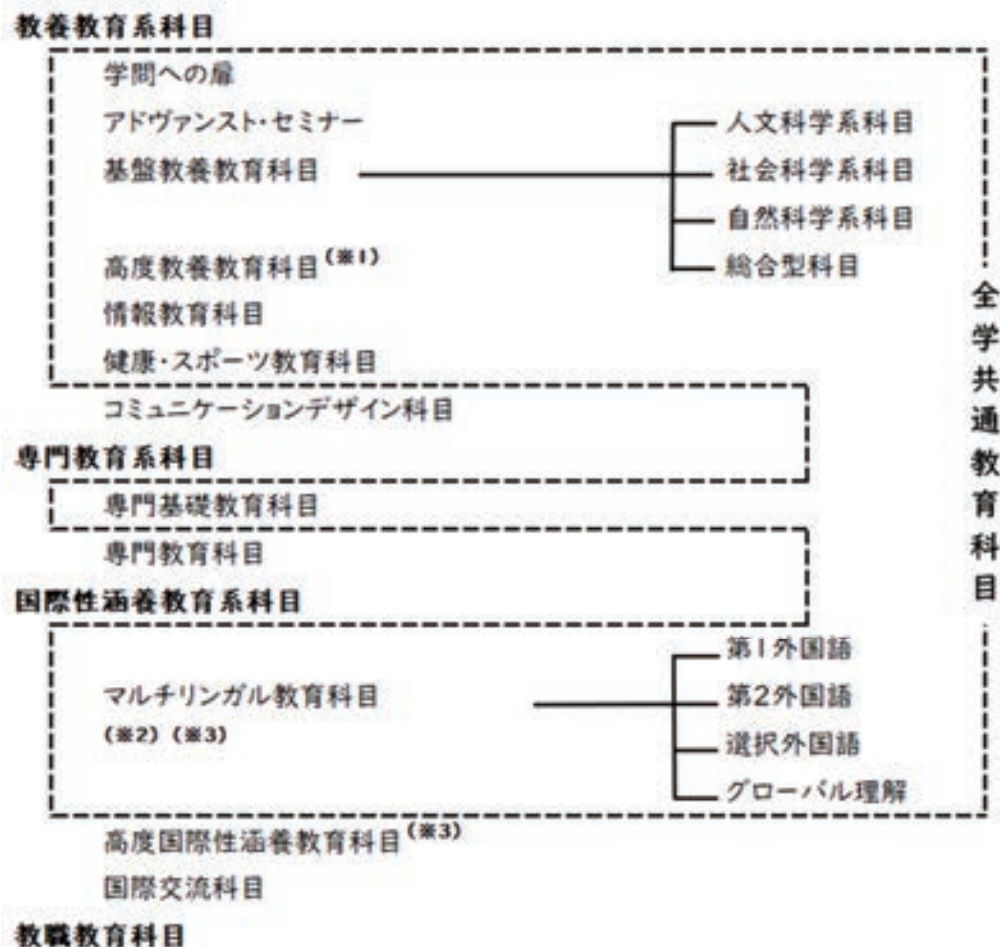
今日の社会では、国際化、高度情報化、価値観の多様化が急速に進んでいます。大学に学ぶみなさんは、こうした社会の変化や技術の進歩に対して柔軟に対応する能力を身につけなければなりません。このために大阪大学は、「教養」「デザイン力」「国際性」をそなえた人材の養成を教育目標としてあげています。そして、この目標達成のための具体的なカリキュラムを教育課程といいます。

大阪大学の教育課程は、教養教育、専門教育及び国際性涵養教育に大きく分けられます。全学共通教育は、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を育むことを目的にしています。したがって、各学部が設定する4年ないし6年間の一貫した教育の中で、教養教育、専門教育及び国際性涵養教育が相補う形で行われることが、大阪大学の教育課程の基本的な理念となっています。

## (2) 共通教育のカリキュラム

本学の授業科目は、下表に示す「教養教育系科目」「専門教育系科目」「国際性涵養教育系科目」及び「教職教育科目」からなっています。みなさんが2年次の夏学期までに主に学修するのが、点線で囲まれた「全学共通教育科目」です。

これらの科目の概要は、次章の「2. 授業科目」で説明されています。



(※1) 高度教養教育科目については、一部の科目を全学教育推進機構が全学共通教育科目として開講、運営する。

(※2) マルチリンガル教育科目については、マルチリンガル教育センターが開講部局となり、運営する。

(※3) マルチリンガル教育センターが、高度国際性涵養教育科目として一部の科目を提供し、運営する。

### (3) 共通教育の実施方法

大学における学修は、教室で行われる授業はもちろん、教室外学修も重要です。学生の自発的な学修を促すために、セミナー等の少人数の授業や演習・実験といった形式の授業も採用されています。コンピュータシステム(eラーニングを含む)を用いた授業もあります。

教育効果への配慮から、各科目の受講者数を制限しており、ほとんどの科目はその調整を授業開始前に行っています。このため、学期ごとに履修を希望する科目の届け出を早い時期に行います。新入生にとっては入学早々の手続きのため、その方法等に戸惑いがあるかも知れませんが、この「履修の手引」並びに各科目のシラバス等をよく読んで行ってください。

参考:全学教育推進機構 HP 新入生向けページ <https://www.celas.osaka-u.ac.jp/fresher/>

### (4) 4学期制

大阪大学では、1年間を4つの学期に区分し、1学期あたり8週の授業実施期間を設け、各学期で授業を完結させることができる柔軟な制度を取ります。学期の区分の名称は、以下のとおりです。

- ・春学期:4月1日~6月中旬
- ・夏学期:6月中旬~9月30日
- ・秋学期:10月1日~12月初旬
- ・冬学期:12月初旬~3月31日

「全学共通教育科目」においては、多くの科目は2つの学期を通して学修する、「セメスター科目(半年単位の科目)」となっており、「春~夏学期」「秋~冬学期」と表記されます。

2年次の夏学期までの1年半は、共通教育に重点が置かれ、「全学共通教育科目」が主に開講されています。

### (5) 授業時間・単位

授業時間は次のとおりです。ほとんどの科目は時限単位で開講されますが、実験科目は3時限連続となります。

第1時限		第2時限		第3時限		第4時限		第5時限		第6時限
8:50~ 10:20	休み	10:30~ 12:00	休み	13:30~ 15:00	休み	15:10~ 16:40	休み	16:50~ 18:20	休み	18:30~ 20:00

(2026年1月現在の授業時間です。今後、変更の可能性があります。)

学修を数量的に示すために「単位」という言葉が用いられます。標準として45時間の学修を必要とする内容をもって構成される授業科目に1単位が与えられ、この45時間は大学の教室等で行う授業の部分と、教室外の自宅等で行う部分との和です。

全学共通教育科目で1単位を修得する際に必要となる授業時間は次ページの表のとおりです。春~夏学期、秋~冬学期それぞれでは通常15回(週)の授業を行いますので、1時限分(2時間とみなします)の授業を15回(週)学修すると30時間となり、教室外学修の時間を加えて教養教育系科目等(①)では2単位、マルチリンガル教育科目等(②)は1単位と計算されます。実験科目(③)は、授業時間45時間で1単位です。

	1単位修得するのに 必要な授業時間	全学共通教育科目
①	15時間	学問への扉、アドヴァンスト・セミナー、基盤教養教育科目、高度教養教育科目、情報教育科目、健康・スポーツ教育科目、専門基礎教育科目、グローバル理解
②	30時間	第1外国語、第2外国語、選択外国語、専門基礎教育科目のうち数学の演義科目
③	45時間	基盤教養教育科目の実験科目、高度教養教育科目の実験科目、専門基礎教育科目の実験科目

### (6) 共通教育の実施体制

共通教育は、全学の教員が分担することによって実施され、そのための運営組織として全学教育推進機構及びマルチリンガル教育センターが設けられています。2年次の夏学期までの授業は主として豊中キャンパスの全学教育推進機構の講義棟で行われます。建物の配置は、全学教育推進機構HPを参照してください。

全学教育推進機構の施設利用・アクセスのページ

<https://www.celas.osaka-u.ac.jp/facilities/>



## 2. 授 業 科 目

全学共通教育科目は、(1)教養教育系科目、(2)専門教育系科目、(3)国際性涵養教育系科目に区分され、それぞれはさらにいくつかの科目群に細区分されます。本項では、これらの科目区分について、その概要を説明します。

### (1) 教養教育系科目

#### 学問への扉(1年次 春～夏学期)

大阪大学で「学び」をスタートさせるみなさんには、1年次の初めに、高校までの学びから、より主体的で創造的な学びへの転換が必要となります。そこで、1年次の春～夏学期に、「課題・文献など一つのテーマや内容をもとに自ら考え、掘り下げる習慣を身に付け、学問への扉を開けるために必須のアカデミック・スキルズ等を学ぶ基礎科目」として「学問への扉」(愛称「マチカネゼミ」)を設定しています。興味ある内容を学ぶ中で、異分野の学生とも接し、異なったものの見方や課題解決の道筋を意識する場とすることが、本科目の目的です。また、この科目においては、レポートの添削指導やプレゼンテーションの指導などを行うことによって、学生の発信力を高めることを目指すため、少人数クラスによる、新入生全員が受講する科目としています。

#### ◆「学問への扉」の履修により期待される効果

- ①研究者との直接対話によって喚起される学びへの新たな意識
  - ②専門とする分野以外の研究に触れることによる専門分野を見る視野の広がり
  - ③入学直後に他学部の学生、他分野の先生と密に接する体験が育む分野の壁を超える学修意欲の向上
- 専門性、教養、国際性、さらにそれを統合するデザイン力を備えた人材を育成する教育の出発点として、学問的探求活動を通じて問題の本質を見極め解決のための手だてを考える教育を行い、大阪大学での学び(「教養教育」「専門教育」「国際性涵養教育」)の導入科目として位置づけます。

※障がい等により上記科目の履修が困難な場合には、全学教育推進機構教務係に申し出てください。

#### アドヴァンスト・セミナー(1年次 秋学期 以降)

「学問への扉」を履修した学生を対象とし、1年次秋学期以降に開講される科目で、フィールドワーク、インターンシップやセミナー等の形態をとる、学生の主体的な学修を重視したアクティビティ科目です。

#### 基盤教養教育科目(1年次 春学期 以降)

大阪大学生として相応しい知性を身につけるための教育課程の始まりに位置づけられる科目です。学問の先端で生み出されている研究成果を専門以外の学生にも分かりやすく講じ、知的営みの魅力や新たな知の地平を切り開く感動を伝え、教養を広げるとともに、知的世界に誘うことを目的としています。また、現代社会が抱える諸問題に関心を抱かせ、それらの解決に対する意欲を湧かせるとともに、そのために必要となる基礎的素養、知識、能力の修得を目的とします。

「基盤教養教育科目」の区分として、「人文科学系科目」「社会科学系科目」「自然科学系科目」及び「総合型科目」が設けられています。

学部によって、基盤教養教育科目のうち各学部の専門に関連する科目を「専門教育科目」として指定されている場合があります。

## 高度教養教育科目(2年次 秋学期 以降)

専門分野以外にも視野を広げ、「複眼的」かつ「俯瞰的」な視点を持った人材を育てること、及び修得した知識を社会における課題解決に応用できる能力(高度汎用力)を養成することを目的としている科目で、2年次秋学期以降の配当科目です。全学共通教育科目としては、

- ・全学教育推進機構が開講する「高度教養教育科目」
- ・全学教育推進機構が運営する「専門基礎教育科目」

が該当します<sup>(※1)</sup>。

## 情報教育科目(1年次 春学期 ※学部によっては異なる学期で実施する場合があります。)

高度情報化社会の構成員としての大学生にふさわしい、情報社会・情報科学の原理、本質、価値、可能性、限界等を理解し、これを使いこなす対応力を修得することを目的とします。コンピュータ端末の実習室における対面学修とeラーニング教材を利用したオンライン学修により構成されています。

## 健康・スポーツ教育科目(1年次 春～夏学期及び秋～冬学期)

健康と体力、そして身体運動に関する幅広い知識を修得し、自主的、合理的に生涯にわたって自身の健康管理と運動、スポーツ活動を行うための教養と実践力を学ぶことを目的として開講するものです。選択必修科目「スマート・スポーツリテラシー」「スマート・ヘルスリテラシー」の2科目から構成されています。コースの概要は、全学教育推進機構HPの新入生向けページを確認してください。

※障がい等により上記科目の履修が困難な場合は、所属学部の教務担当係に申し出てください。

※年度によっては、文部科学省依頼の「体力・運動能力調査」を実施する場合があります。

なお、当該科目の要件単位数を満たした後でも繰り返し履修が可能です(所属学部・学科により卒業要件単位数への参入は異なりますので詳しくは所属学部・学科に確認してください)。

## (2) 専門教育系科目

### 専門基礎教育科目

各学部が規定する専門教育系科目として、専門分野の基盤となる学問を学びます。「統計学」「数学」「物理学」「化学」「生物学」「地学」「図学」の各分野からなっています。

## (3) 国際性涵養教育系科目のうち、マルチリンガル教育科目

マルチリンガル教育科目は、以下の2つの目標を設定しています。

- ・グローバル化する社会に対応し国際的に活躍できる英語力を有する人材の育成
- ・多言語・多文化への深い理解にもとづく国際的視野を持った人材の育成

この目標のもと、第1外国語、第2外国語、選択外国語、グローバル理解の科目区分を設けています。

---

※1 その他、コミュニケーションデザイン科目、各学部が開講する専門教育科目(専門教育及び国際性涵養教育両方の性質を持つものを含む)のうち、他学部学生の履修を認める科目、各学部が開講する高度教養教育科目及び当該科目のうち、他学部学生の履修を認める科目も高度教養教育科目として履修可能ですが、手続はそれぞれの定めに従ってください。

## 第1 外国語

共通教材によるeラーニング授業により基盤となる英語スキルを習得させると同時に、少人数による対面式授業において、様々な内容や課題、活動を通じて学生が出来る限り多くの技能を総合的に涵養し、アカデミック・イングリッシュの能力を強化します。

### 総合英語

「読む・書く・話す・聞く」のうち1つのみではなく、様々な内容や課題、活動を通じてできる限り多くの技能を総合的に学ぶことを目指す対面授業で、下記のサブカテゴリに分類されます。

外国語学部 以外	Project-based English	学生個々の興味・関心をもとに個人又はグループで独自に設定したリサーチに取り組み、その成果を発表・議論する学生中心型科目。
	Content-based English	各教員が設定する学術分野の内容を、英語での講義に加え、英語でのディスカッション、ディベート、プレゼンテーションを行う発信型科目。
	Liberal Arts & Sciences	リーディングやリスニング活動を通じて社会問題や言語文化、芸術、科学などの様々な問題や論説を理解し、さらに自らの意見を主張し議論することを学ぶ科目。
	Performance Workshop	英語のアウトプット能力（スピーキング又はライティング）の育成に特化した科目。英語で行われ、言語能力の育成に焦点を据える。
	Academic Skills	各教員が英語での学術活動に必要な基礎的なアカデミックスキルを設定し、講義と演習を通して育成する科目。
外国語学部	総合英語 I ~ IV	相当レベルのリーディング、ライティング、リスニング、プレゼンテーション技能を有機的に連動させ、高度の英語運用能力を総合的に養成する。

### 実践英語

1、2年生の全員が履修する「実践英語」は、共通教材を使った e-learning 授業で、前項「総合英語」が目指す高度な学術英語スキルの語学力的基盤を養成します。さらに TOEFL-ITP の 550 点に相当する基盤的英語力の習得を目標とし、全学生の国際化対応能力を向上させることも目的としています。

「実践英語」には、1 年次秋～冬学期の「実践英語 (e-learning 入門)」及び 2 年次春～夏学期の「実践英語 (e-learning 応用)」の 2 科目があります。いずれも学修者が各自のライフスタイルに合わせた時間・場所を選び、PC などからサーバー上の教材にアクセスし自律的に学修を進める形をとります。授業担当者はオフィスアワーや学修管理システムなどを通してきめ細かな学修サポートを提供し、学修上のつまづきや疑問に対応します。

本科目の履修には、各科目指定の e-learning 教材 (ライセンス) を期日までに購入することが必要です。教材の購入案内は、開講の約 1ヶ月前に KOAN 掲示板の個別連絡に掲出ならびにメール通知がされますので、必ず KOAN 掲示板で掲示内容を確認して準備をしてください。

## 第2外国語

第2外国語としては7種類、留学生に対しては日本語を加えた8種類の外国語が開講されています。英語以外の外国語の初級レベルと中級レベル（留学生対象日本語は超上級レベル）の学修を通じて、母語や英語を相対化し、多角的視野を持って国際化に対応できる言語運用能力とコミュニケーション力を涵養することを目標とします。学生のみなさんは各学部の指示に従い、これらの外国語の中から1つを選び、同じ外国語で必要単位数をそろえなければなりません。

	初級	中級	上級
ドイツ語	発音及び基本的な文法事項を習得することを目的としています。1年次の春～夏学期で受講する科目は各外国語の初級Ⅰであり、この科目は各外国語を初めて学ぶ学生のみなさんのための入門クラスになっています。1年次の秋～冬学期で受講する各外国語の初級Ⅱは、1年次の春～夏学期の初級Ⅰの続きとなっており、基本的な文法事項を学修していきます。このように1年間通して学修することによって、将来の文献講読やコミュニケーションのためのしっかりとした基礎をつくるのが初級Ⅰ・Ⅱの目標です。	各外国語の中級は初級で学んだことより、より高度な文法事項を習得し、読解力を養成することを目的としており、2年次の春～夏学期及び秋～冬学期に開かれています。	ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語については、各外国語の能力をよりいっそう高めたい学生のみなさんのためにさらに上級の科目が用意されています。
フランス語			
ロシア語			
中国語			
朝鮮語			
スペイン語			
イタリア語			
日本語 ※留学生のみ	全学部対象に2科目（「総合日本語」と「専門日本語」）が計週3～5コマ（学期によって異なる）開講されています。学部指定はありませんので、授業内容及び各自の時間割などを勘案して、原則として春～夏学期及び秋～冬学期にそれぞれ1科目を選んで履修します。		

## 選択外国語（文学部・人間科学部のみ対象）

第1外国語（英語）、第2外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語）、第3外国語（ギリシャ語、ラテン語）の中から春～夏学期及び秋～冬学期にそれぞれ1言語を選んで履修します。必ずしも同一の言語で必要単位数をそろえる必要はありません。

英語	英語選択：各年次・学期では、特色ある授業が複数開講されます。各科目のシラバスを参考にして、履修してください。
ドイツ語	
フランス語	
ロシア語	
中国語	
	ドイツ語初級Ⅰ・Ⅱ選択、フランス語初級Ⅰ・Ⅱ選択、ロシア語初級Ⅰ・Ⅱ選択、中国語初級Ⅰ・Ⅱ選択はそれぞれ同一の第2外国語の初級Ⅰ・Ⅱを履修していることを前提としたやや高度な言語運用能力の養成をはかるものです。
	2年次の各学期に開講される選択外国語は、いずれも1年次の各学期の外国語の内容をより高度化したものです。従って、1年次の各学期の外国語を履修していることを前提とします。

<p>ギリシャ語 ラテン語</p>	<p>選択外国語には、第3外国語のギリシャ語、ラテン語も開講されています。</p> <p>これら2言語は1週に1回の授業で、文字・発音及び基本的な文法事項を基礎として、より高度な言語能力を習得することを主な目的としています。</p> <p>1年次の春～夏学期で受講する科目はいずれも初級Ⅰ選択であり、これらの科目はギリシャ語とラテン語の入門クラスになっています。1年次の秋～冬学期で受講するのは同じ外国語の初級Ⅱ選択であり、1年次の春～夏学期の初級Ⅰ選択の続きになっており、基本的な文法事項等をさらに学修していきます。このように1年間通して学修することによって、将来の文献講読のためのしっかりとした基礎をつくるのが、初級Ⅰ選択・初級Ⅱ選択の目標です。さらに、2年次の各学期で開かれている中級Ⅲ選択・中級Ⅳ選択では、初級Ⅰ選択・初級Ⅱ選択で学んだことを基礎にして、さらに高度な文法事項を学ぶとともに、文献講読に進みます。</p>
-----------------------	---

### グローバル理解

学生が第2外国語の学修によって身に着けた語学力を活かしつつ、さらに語学力を伸ばしながら、背景となる文化理解を深め、世界の多様な歴史、文化、社会、科学等についてのグローバルな理解の促進と豊かな教養にもとづくコミュニケーション力の育成を目指します。学生のみなさんは、第2外国語で選択した言語に必要単位数をそろえなければなりません。

「国際コミュニケーション演習」は、第2外国語によるコミュニケーション能力を高めることを目的にしており、ネイティブの外国人教員による授業も開講されています。

「地域言語文化演習」は、第2外国語に対応する文化圏のさまざまな言語文化について理解を深めることを目的としていますが、その方法としては、外国語文献の読解やテーマ別の講義、演習等、様々な方法による授業が開講されています。

「特別外国語演習」は、第1外国語・第2外国語以外のアジア・アフリカ・中東・ヨーロッパ諸語の基礎的文法を習得するとともに、それら諸地域の文化的特性に関する理解を深めることを目的にしており、当該言語文化の専門家による授業が開講されています。

「多文化コミュニケーション(日本語)」は、留学生と学問への扉やアドヴァンスト・セミナーとして履修する一般学生とが共同で課題に取り組み議論することによって、多文化コミュニケーション能力・多文化行動能力を養成することを目的とする演習形式の授業です。

(注) 人間科学部、法学部、経済学部、理学部のみなさんはグローバル理解科目(国際コミュニケーション演習、地域言語文化演習、多文化コミュニケーション)を、必要単位数を修得後も継続して履修することができます。必要単位数を超えて修得した単位は、それぞれの学部の規程によって、いわゆる自由選択の単位として認められることがあります。詳しくは各自所属学部の便覧等を確認してください。

### 3.履修手続

全学共通教育科目の履修に当たっては、定められた手続に従って履修科目の登録(履修登録)を正確に行わなければなりません。履修登録とは、授業を受講する意思があることを示すもので、その授業を受講し、単位を修得するための条件となります。以下にて、履修登録の手続とルールについて説明します。

#### (1)履修登録の原則とルールについて

##### いま自分が履修できる授業科目とは？

履修登録にあたっては、履修したい授業を決定しなければなりません。特に1年次のうちは、卒業要件単位に基づき、ある程度履修できる授業やクラスは決まっています。各自が所属する学部・学科の各曜日時限に記載されている科目が、履修が可能又は必ず履修しなければならない科目です。これらの科目を「正規配当」科目と呼び、特に1年次における履修登録とは、このようにその年次・学期に「配当されている」科目のうち、どの科目を履修するのか、また、クラスを選択できる場合にはどのクラスを選ぶのか等の希望を表明するという手続になります。時間割表は、P.3「履修案内ページの閲覧方法について」を参考の上、全学教育推進機構HPの新生向けページにて確認してください。

##### 履修登録方法は？

履修登録は、所定の期間内に、原則としてKOAN(学務情報システム)を介して行います。なお、必修科目であれば、自動登録されているなど、自身による登録を要しない授業科目もあります。詳細は「付録2履修登録方法一覧表(P.28)」をご覧ください。

##### 修得できなかった授業科目を再度履修する場合は？

1年次秋学期以降で、過去の年次・学期で履修したが修得できなかった科目を再度履修する場合、あるいは、興味があったが時間割の都合上履修できなかった科目を学年が上がってから履修する場合等を合わせて「再履修等」と言います。「再履修等」における主な留意点は、以下のとおりです。

##### ① 再履修等の場合、原則として、他学部配当の同一名称科目を履修可能です。

再履修等の場合、自分の学部配当されている科目以外でも履修することができます。

例えば、1年次の春～夏学期で修得できなかった科目を取り直そうとする場合、他の学部・学科に配当されている同一名称の授業科目を履修することで卒業要件単位とすることができます。

ただし、再履修生にも履修制限を設ける科目も一部存在しますので、シラバスで確認してください。

##### ② 全ての科目につき、所定の履修登録手続を行う必要があります。

必修科目等、正規配当の履修の場合には先行して自動登録されており自身での手続が不要であった科目についても、再履修等の場合は、全ての科目において登録手続が必要となります(自動登録はされません)。

##### 履修上のルールは？

授業科目を選ぶにあたって、下記のルールを設けていますので留意してください。

##### ① 重複受講の禁止

同一授業時限に複数の授業科目を重複して履修すること、また、同一名称の科目を複数の時限で履修することはできません。

× 水1「日本国憲法」という科目を履修しつつ、同じく水1で第1外国語の再履修をする。

× 水1「日本国憲法」のほかに、木5「日本国憲法」を履修する。

## ② 修得済み科目の履修の禁止

既に単位を修得した科目について、同一名称の科目を再度履修することはできません（「繰り返し履修」(P.10 参照)および「積重ね科目」(P.42参照)を除く）。

× 1年次の春～夏学期で「日本国憲法」という科目を履修・単位修得し、1年次の秋～冬学期で再度「日本国憲法」を履修する。

## ③ 受講定員

各授業科目にはその授業科目の性質や使用する教室等を考慮して定員が定められており、定員を超える受講希望者があった場合は、抽選のうえ受講者を決定します。定員を超えた受講は認められません。

## (2) 履修登録の流れについて

履修登録は、主にKOANを用いて行うこととなっており、具体的には以下の2つの方法に分類されます。

### 履修希望(抽選)登録

その学期に受講したい授業科目について、授業期間開始前の所定期間にて個々の学生からの希望を受け付け、登録期限後に抽選処理によって受講可否を判定します。抽選結果発表は、KOANの「履修登録・登録状況照会」画面への反映をもって行います。

### 履修追加(先着順)登録

追加で履修したい授業科目がある場合は、抽選結果発表後に、その科目が受講定員に達していなければ、所定期間内に先着順にて追加登録ができます。この期間では、正規配当の一部科目を除き、不要となった科目の履修削除も可能です（履修取消と異なり別の科目を登録し直すことができます）。なお、上記によらず先行して自動登録されているもの（登録手続不要）もありますので注意してください。また、履修登録がされているかについては、KOANの「履修登録・登録状況照会」により必ず確認してください。

### 履修取消

履修を始めてしばらくしてから、例えば、難度が高かったり、想定していたものと内容が違っていたりした場合、履修登録を「取り消す」ことによって、授業科目の履修を中止することができます。

履修取消期間（授業開始後、3週目頃）中にKOANから取消処理を行うと、学期GPA及び通算GPA（P.19参照）の算出から除外します。

## (3) 履修登録を行うにあたって

### 1年次春～夏学期の履修手続

下記を準備・熟読の上、学部別履修指導及び新入生履修希望(抽選)登録に備えてください。

・「全学共通教育科目を履修するにあたって必ずすること」(P.2 参照)

・「履修案内ページの閲覧方法について」(P.3 参照)

・KOAN(共通教育関連)、大阪大学CLE、無線LANマニュアル

参考：<https://www.celas.osaka-u.ac.jp/education/support/>

・全学教育推進機構HP 新入生向けページ

参考：<https://www.celas.osaka-u.ac.jp/fresher/>

### 1年次の秋～冬学期以降の履修手続

前学期終了前に学内掲示板や全学教育推進機構HP、KOAN掲示板にて指示を行います。必ず確認のうえ、忘れないように履修登録を行ってください。

## 4. 試験及び成績

授業科目の成績評価のため、原則として年次・学期ごとに筆記試験が行われます。筆記試験の代わりにレポート提出、口述試験、実習報告等によることもあります。また、科目によっては平常の成績をもって試験成績に代えることがあります。

受験等に際しては、以下の事項に留意してください。

なお、これらの事項は、原則として、中間、臨時、平常試験等にも適用されます。

### (1) 受験が認められない場合

- ① 履修登録を行っていない授業科目については、受験資格がありません。
- ② すでに単位を修得した授業科目について再度受験することはできません。

### (2) 筆記試験受験上の注意事項

- ① 試験は指定された場所（講義室等）で受験してください。
- ② 各試験室では監督教員の指示に従って着席してください。
- ③ 試験開始後20分以上の遅刻者は、原則として受験できません。
- ④ 試験開始後25分間は退室できません。
- ⑤ 一度退室した者は再び入室することができません。ただし、体調不良又はトイレ等により、やむを得ず退室を希望する場合には、監督教員に知らせて指示に従ってください。
- ⑥ 試験時間は、チャイム又は監督教員の指示に従ってください。
- ⑦ 受験に際しては必ず学生証を机上の左上に提示してください。デジタル学生証は使用できません。
- ⑧ 学生証を携帯しない者は受験できません。万一学生証を忘れてきた場合、デジタル学生証しか持参していない場合は、前もって全学教育推進機構教務係にて仮受験票の交付を受けてください。（P.23参照）
- ⑨ 受験者名表が配付された場合には必ず記名してください。
- ⑩ 答案用紙は各自必ず監督教員に提出し、提出後は速やかに退室してください。  
なお、試験放棄の意志のある場合等も答案用紙は持ち帰らないでください。
- ⑪ 受験中における私語及び物品の貸借は一切禁止します。試験中に消しゴム等を机から落とした場合、自分で拾うのではなく、挙手して監督教員の指示に従ってください。
- ⑫ 参照（使用）を許可された場合を除き、筆記用具、時計、学生証以外の書籍・ノート等はカバン・袋類にしまって、机の下に置いてください。また、電子辞書、携帯電話、スマートフォン、腕時計型端末及びICレコーダー等の電子機器類は必ず電源を切り、カバン・袋類にしまってください。身につけることは厳禁です。
- ⑬ 机の周りに持参物以外のものがあれば、監督教員に申し出てください。
- ⑭ その他の事項については監督教員の指示に従ってください。
- ⑮ 不正行為は絶対に行わないでください。不正行為を行った場合は、その学期の全学共通教育科目の成績評価がすべて無効（不合格）となります。

### (3) 不正行為と成績評価

筆記試験等(※)において不正行為を行った場合は、その学期の全学共通教育科目の成績評価がすべて無効(不合格)となります。

※ 筆記試験等とは期末・中間・臨時・平常試験における筆記試験、口述試験、レポート提出、実習報告、作品提出などで、授業担当者が成績評価の対象とするすべてのものを指します。

筆記試験、口述試験において、他人の答案やカンニングペーパーなどを見るカンニング、あるいは参照(使用)を許可されていないものやスマートフォンなどの電子機器類を参照(使用)した場合は不正行為となります。また、参照(使用)を許可されていないものやスマートフォンなどの電子機器類を机の上に置いたまま、あるいは身につけていた場合や参照(使用)できる状況にある場合も不正行為とみなされることがあります。

また、レポート提出や実習報告、作品提出にあたって、公表、未公表を問わず、引用先を明記せずに、他人の論文、著作、レポート、ウェブサイト、インターネット投稿、講義配付物の一部又は全部を剽窃(コピー&ペーストなど)した場合も不正行為となります。ただし、不注意のため引用先を明記しなかった場合を除きます。

不正行為を行った学期と無効(不合格)となる成績評価の学期

不正行為を行った学期	無効(不合格)となる成績評価の学期
春学期	春学期、夏学期及び春～夏学期の成績評価
夏学期	
春～夏学期	
秋学期	秋学期、冬学期及び秋～冬学期の成績評価
冬学期	
秋～冬学期	

筆記試験等における不正行為については厳格に対処します。

不正行為によりその学期の全学共通教育科目すべての成績が無効(不合格)になると、学期GPAや通算GPAのみならず、進級や卒業などのその後の学業に多大の影響を及ぼします。

上記に留意のうえ試験等に臨んでください。

#### (4) 追試験

学校感染症や忌引き等の事由によって試験の一部ないし全部を受験できない(もしくはできなかった)場合は、速やかに欠席の手続きを行ってください(P.23参照)。

なお、学校感染症以外の疾病・負傷等のその他やむを得ない事由によって試験の一部ないし全部を受験できない(もしくはできなかった)場合は、授業担当教員に、診断書等の証明書類を提示の上で直接事情を説明し、判断を仰いでください。

授業担当教員が、追試験実施が妥当であると認めた場合は、追試験を行うことがあります。

#### (5) レポート提出

提出方法・場所・期間については、授業担当教員の指示に従ってください(授業中及びレポート掲示等により指示されます)。提出期間及び受付時間を超えたものは、いかなる理由があっても受け付けられません。授業担当教員から提出場所として全学教育推進機構教務係内のレポートBOXを指示された場合は以下のとおりです。なお、一度レポートBOXに投入されたレポートの返却・差替はできません。

(設置場所) 全学教育管理・講義A棟2階・全学教育推進機構教務係内

(提出方法) 科目ごとにレポートBOXが用意されます。提出にあたっての注意事項を読み、備え付けのレポート受付票を添付し投入してください。

#### (6) 成績

- ① 成績は履修状況と試験等の評点を総合して判定します。
- ② 成績は「A+」「A」「A-」「B+」「B」「C+」「C」「C-」「F」の9段階で評価し、「A+」「A」「A-」「B+」「B」「C+」「C」「C-」を合格、「F」を不合格とします。
- ③ 合格となった授業科目については所定の単位を与え、その授業科目の名称、単位数、修得年度、成績を学籍簿に記載します。一度修得した授業科目の成績は、これを取り消したり、再度履修し直して更新したりすることはできません。

#### (7) 成績結果の誤記入等に関する申立てについて

次の場合は、成績結果の誤記入等に関する申立てを行うことができます。

ただし、成績評価の理由、根拠に関する申立ては受け付けません。

- ① 成績評価が明らかに誤記入(採点ミス、登録ミス)によると思われる場合
- ② 成績評価が明らかに試験等の結果や出席状況などから判断して誤っていると思われる場合  
(受付期間)

成績発表の日から1週間以内(土曜・日曜・祝日を除く)。

ただし、期間内に申請できないやむを得ない理由がある場合は、速やかに全学教育推進機構教務係に相談してください。

(申立方法)

全学教育推進機構教務係で配付する「全学共通教育科目成績結果の誤記入等に関する申立書(所定様式)」を同係に提出してください。

## (8) グレード・ポイント・アベレージ制度 (以下、「GPA制度」という) について

大阪大学では、平成26年度からGPA制度を導入しています。

GPA制度の実施は、学修の状況及び成果を示す指標としてのGPAを算出することにより、各学部において学生の学修意欲の向上及び適切な修学指導に資するとともに、教育の国際化を促進することを目的としたものです。

詳細について下記を参照してください。

参考：[https://www.osaka-u.ac.jp/ja/education/academic\\_reform/gpa](https://www.osaka-u.ac.jp/ja/education/academic_reform/gpa)

### ① GPについて

成績の評価及び各評価に与えられるGPは、以下のとおり定めています。

	A+	A	A-	B+	B	C+	C	C-	F
成績の評価	90点以上	90.5点以上 85点未満	85.0点以上 80点未満	80.5点以上 75点未満	75.0点以上 70点未満	70.5点以上 65点未満	65.0点以上 60点未満	60.5点以上 55点未満	60点未満
GP	4.0	3.7	3.3	3.0	2.7	2.3	2.0	1.0	0.0

### ② GPAについて

当該学期におけるGPA (以下「学期GPA」という) 及び全在学期間におけるGPA (以下「通算GPA」という) があります。学期GPA及び通算GPAを算出する計算式は以下のとおりです (GPAの算出は、小数第3位以下を切り捨てるものとします)。

#### 【学期GPAを算出する計算式】

$$\text{学期GPA} = \frac{\text{(当該学期に評価を受けた各授業科目で得たGP} \times \text{当該授業科目の単位数) の合計}}{\text{当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計}}$$

#### 【通算GPAを算出する計算式】

$$\text{通算GPA} = \frac{\text{(各学期に評価を受けた各授業科目で得たGP} \times \text{当該授業科目の単位数) の合計) の総和}}{\text{(各学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計) の総和}}$$

## (9) 大阪大学全学教育優秀賞について

大阪大学では、学部2年次学生 (インターナショナルカレッジ (学部英語コース) に在籍する学生は3年次学生) を対象に全学共通教育において優秀な学業成績をあげた学生を表彰する制度を設けています。選考は全学共通教育科目の学業成績により行い、12月頃に受賞者を発表します。

詳しくは全学教育推進機構のHPをご覧ください。

参考：<https://www.celas.osaka-u.ac.jp/top-50-of-osaka-univ/>

## 5. 学習相談/サポートの体制について

ラーニング・サポートデスクは、大阪大学が公式に提供する学習相談窓口です。附属図書館のラーニング・コモンズ内にあり、大阪大学の学生ならどなたでも利用できます。

ラーニング・サポートデスクでは、大学院生の「ラーニング・サポーター（LS）」が、授業内容や学習方法、専門課程・大学院進学など、学生の皆さんからの相談に応じています。対面・オンライン、または Web フォームで利用できます。

「授業中に分からないところがあって先に進めない」「レポート課題の取り組み方に迷っている」といった勉強上の相談から、「何が分からないか分からない」「留学について少し聞いてみたい」といった、先輩に気軽に相談するような内容まで、幅広く受け付けています。どうぞお気軽にご相談ください。

「ラーニング・サポーター（LS）」の所属研究科や在席時間、専門分野については、附属図書館 Web サイトでご確認ください。

なお、全学共通教育科目の履修登録に関する事項については、全学教育推進機構教務係（全学教育管理・講義A棟2階）にお越しください。



ラーニング・サポートデスク（大阪大学附属図書館 Web サイト）  
<https://www.library.osaka-u.ac.jp/research/ta/>

## 6. 交通機関運休等の場合の授業の取扱いについて

### (1) 気象警報発表時の取扱い

大阪府「豊中市・吹田市・茨木市・箕面市のいずれか又はこれらの市を含む地域」に「暴風警報」、「特別警報\*」又は、「警戒レベル4相当\*」、「警戒レベル5相当\*」が発表された場合、授業を休講とします。

なお、当該発表が授業開始後の場合は、次の時限の授業から休講とします。

\* 「特別警報」については暴風、波浪、大雪、暴風雪、など、「警戒レベル4相当」、「警戒レベル5相当」については、河川氾濫、大雨、土砂災害、高潮など内容を限定せず、すべての「警報」を対象とします。

### (2) 公共交通機関の運休時の取扱い

災害により、通学路線のうち以下の公共交通機関のいずれかが運行の休止又は運転の見合せ(以下、「運休」という。)となった場合(一部区間の運休を含む)、当該キャンパスで開講する授業を休講とします。

#### ① 豊中キャンパス

阪急電車(宝塚線:大阪梅田-宝塚間)又は大阪モノレール(全線)

#### ② 吹田キャンパス

阪急電車(千里線:大阪梅田/天神橋筋六丁目-北千里間)又は大阪モノレール(全線)

#### ③ 箕面キャンパス

大阪メトロ(御堂筋線(北大阪急行路線含む):梅田-箕面萱野間)又は大阪モノレール(全線)

ただし、事故等による一時的な運転見合せについては、休講とはしません。

### (3) 気象警報又は公共交通機関運休の解除時の取扱い

気象警報又は公共交通機関の運休が解除された場合の取扱いは次のとおりとします。

警報・運休解除時刻	授業の取扱い
午前6時以前に解除された場合	全日授業実施
午前9時以前に解除された場合	午後授業実施
午前9時を超過しても解除されない場合	全日授業休業

注1 連合小児発達学研究科については、別途当該研究科からメールにより取扱いを連絡します。

注2 解除の確認は、テレビ・ラジオ・インターネット等の報道によるものとします。

### (4) 地震発生時の取扱い

大阪府「豊中市・吹田市・茨木市・箕面市」のいずれかで震度5強以上の地震が発生した場合、その日の授業を休講とします。ただし、地震の発生が午後5時15分以降の場合は、翌日の授業も休講とします。

また、地震が当該地域以外で発生した場合又は震度5強未満の場合は、公共交通機関の運行状況に応じて対応することとし、上記(2)の取扱いに従うこととします。

## (5) 災害に伴う避難指示又は緊急安全確保発令時の取扱い

大阪府「豊中市・吹田市・茨木市・箕面市」のいずれかの市から、災害に伴う避難指示又は緊急安全確保（以下「避難指示等」という）が発令された地域（以下「避難地域」という）に所在する部局においては、授業を休講とする場合があるので、部局からの連絡に従ってください。

## (6) その他

- ① この取扱いに該当しないため授業を実施する場合であっても、学生の皆さんの居住地又は通学経路にある地域で、上記(1)と同様の気象警報が発表された場合、上記(4)と同様の地震が発生した場合、上記(2)以外の公共交通機関が運休した場合等やむを得ない事情により授業を欠席した場合は、履修上不利益とならないよう配慮しますので、授業開講部局又は所属部局の教務担当係に申し出てください。
- ② 気象警報の発表、公共交通機関の運休又は避難指示等の発令が事前に予想される場合、又は緊急に休講措置の必要が生じた場合は、大学ホームページ又はKOANにおいて通知します。

- ・ メディア授業（定期試験を含む。以下同じ。）については、この取扱いを適用せず、気象警報の発表時等においても原則として授業を実施します。
- ・ ただし、メディア授業の実施が困難な事象が発生した場合は、授業開講部局の判断により休講とすることがあります。その場合は、KOAN等でお知らせします。
- ・ 学生の皆さんの居住地又は通学経路にある地域に暴風警報又は特別警報が発表された場合、震度5強以上の地震が発生した場合において、避難又はその準備をしなければならない等やむを得ない事情により、メディア授業を受講できない場合には、履修上不利益とならないよう配慮しますので、授業開講部局又は所属部局の教務担当係に申し出てください。

## 7. 学生の諸手続について

(1) 届と願: 学生の諸手続には大別して次の2種類があります。

- ① 届……………所定の用紙（または形式）に記入して提出すれば完結するもの。
- ② 願……………単に提出するだけでなく、必ず許可を受けなければならないもの。

下記事項について十分留意のうえ、手続は確実に行ってください。

(2) 修学等に関すること: 全学教育推進機構教務係

[窓口業務時間 8:30～16:30 (休憩時間 11:30～12:30)]

または、所属学部の教務担当係等(※詳細は下表のとおり。)

事項	手続窓口等	摘要
授業・試験欠席届	全学教育 推進機構 教務係	学校感染症や忌引き等で欠席した場合、 <b>事後に</b> 届け出てください。詳細は次項(3)で確認してください。
仮受験票		全学共通教育科目の試験時に学生証を忘れてきた場合。
通学定期乗車券 発行控		定期券は学生証と通学定期乗車券発行控で購入できますが、特別に交通機関への証明書が必要な場合はその都度願い出てください。 ※2年次の秋学期以降の通学に関する証明書は所属学部の教務担当係に願い出てください。
改姓(改名)届 休学願 復学願 退学願 等	所属学部 教務担当係	各書類には提出期限が設けられています。所属学部から配布されている案内等にてご確認ください。
住所／保護者／ 保護者住所 変更	KOAN	変更後速やかにKOANに登録してください。
学生証(再発行)	学生センター	学生証を紛失・破損した場合、KOAN の一般アンケートから再発行申請を行い、学生センターでお受け取りください。
在学証明書 成績証明書 等	証明書 自動発行機	証明書自動発行機によって発行します。 詳細は(4)で確認してください。

### (3)「授業・試験欠席届」について

全学共通教育科目を欠席した場合において、授業・試験欠席届を提出することができる事由は下表のとおりです。これらの事由においては、授業担当教員は学生が履修上不利益とならないよう配慮を行うものとして全学教育推進機構及びマルチリンガル教育センターにおいて定められています(ただし、配慮内容は授業担当教員にて個別に検討されます)。原則として事後の手続きとなっており、全学教育推進機構教務係窓口または以下 URL・QR コードから Web 申請フォームにより手続きをしてください。(申請後の「授業・試験欠席届」の引き渡しは窓口のみで行っています。)

<https://www.celas.osaka-u.ac.jp/education/absence/>



欠席事由	配慮を要する期間	必要書類
学校感染症(学校保健安全法施行規則第18条に規定する感染症)を罹患したことにより出席停止の措置を受けた場合	学校保健安全法施行規則第19条に規定する <u>出席停止</u> の期間	診断書等 (「病名」、「出席停止期間」が特定できるもの)
親族(3親等以内)が死亡した場合	通夜、葬儀などのために要した日数 ・配偶者、1親等 連続7日以内 ・2、3親等 連続3日以内	死亡診断書、 会葬礼状 等
「裁判員の参加する刑事裁判に関する法律」に基づく裁判員の選任手続きのため及び裁判員の職務に従事するため裁判所に出頭した場合	裁判所に出頭した日	裁判所からの呼出状 等
居住地及び通学経路に係る特別警報が発令された場合	特別警報が発令された日	不要
骨髄バンクドナー候補となり、提供のため通院・入院する場合	通院・入院等のほか、必要な手続きのため医療施設に赴いた日	通院・入院等のほか、必要な手続きのために医療機関に赴いた日を証明できる書類

(備考) 全学教育推進機構教務係での手続を必ずしも要しないもの

- ・ 学校感染症以外の疾病・負傷等のその他やむを得ない事由  
授業担当教員に、診断書等の証明書類を提示の上で直接事情を説明し、判断を仰いでください。  
ただし、課外活動による欠席は原則として履修上不利益とならないよう配慮すべき事由には該当しないものとします。
- ・ 教職課程に係る「教育・養護実習」及び「介護等の体験」  
実習・体験申込者に配付される専用様式を使用してください。配付時期等は、教育・学生支援部教育企画課学務係(gakutc-stu@ml.office.osaka-u.ac.jp)に問い合わせてください。  
なお、全学教育推進機構教務係での手続とはなりません。本事由については、授業担当教員は学生が履修上不利益とならないよう配慮を行うこととして、全学教育推進機構及びマルチリンガル教育センターにおいて定められています。

#### (4) 証明書自動発行機に関すること

設置場所	利用時間	発行書類
全学教育推進機構管理・講義 A棟2階教務係前	8時30分～17時	・学割証 ・在学証明書 ・成績証明書 ・卒業見込証明書(最終学年次の学生のみ) ・健康診断証明書
豊中学生センター (学生交流棟2階ホール)		
吹田学生センター (ICホール1階)		
医学部医学科共通棟1階玄関		
工学部管理棟U1M棟1階 教務課横		
外国学研究講義棟 2階就職情報コーナー横		

※証明書自動発行機は月～金曜日(祝日、年末・年始、夏季休業日の指定日を除く)に利用できます。

参考: <https://www.osaka-u.ac.jp/ja/campus/certificates/testifier.html>

※健康診断証明書は個人によって証明書自動発行機から出力されない場合があります。その場合、詳しくは各キャンパスのキャンパスライフ健康支援・相談センターにお問い合わせください。

※上記以外の証明書の発行については、所属学部の教務担当窓口にお問い合わせください。

#### (5) 自転車通学(駐輪場)に関すること

自転車通学をする場合は指定された場所に駐輪し、構内での移動の手段としないでください。

指定場所以外に止められた自転車、放置された自転車は強制的に撤去する場合があります。

また、阪大坂は自転車の通行が禁止されていますので、ご注意ください。

#### (6) 身体障がい等に関すること

身体障がいまたは疾病・負傷等により徒歩による通学・階段の昇降が困難な者で、自動車通学(車両入構)を希望する者は、所属学部の教務係に申し出て所定の手続きをしてください。

#### (7) その他、学生生活に関すること

日本学生支援機構や地方公共団体等の奨学金、授業料免除の詳細、授業料の支払いに関すること、学割証や学生教育研究災害傷害保険の詳細は、大阪大学のホームページ(ホーム → 学生生活・学生支援 → 大阪大学取扱説明書(学生生活の手引))にて情報提供しています。下記を参照してください。

参考: <https://www.osaka-u.ac.jp/ja/campus/manual>



# 付録I 全学共通教育科目に係る卒業要件単位数一覧表

(教養教育系科目、専門教育系科目)

科目 カテゴリー	学部	学科・専攻等	教養教育系科目							専門教育系 科目	合計		
			学問への扉	アドヴァンスト・セミナー	基盤教養教育科目				高度教養 教育科目			情報教育 科目	健康・ スポーツ 教育科目
					人文科学系	社会科学系	自然科学系	総合型					
	文学部		2	*	6				*	2	2	0	12
	人間科学部		2	*	6					2	2	6	18
	外国語学部		2	*	6					2	2	0	12
	法学部		2	*	10					2	2	0	16
	経済学部		2	*	10					2	2	4	20
	医学部医学科		2		8 (「自然科学系」科目から4単位を履修し、計8単位を修得すること。)				2	2	2	14	30
	医学部保健学科	看護学専攻	2		6 (基盤教養教育科目から4単位以上を履修し、計6単位を修得すること。)				2	2	2	13	27
		放射線技術科学専攻	2		6 (基盤教養教育科目から4単位以上を履修し、計6単位を修得すること。)				2	2	2	16	30
		検査技術科学専攻	2		6 (基盤教養教育科目から4単位以上を履修し、計6単位を修得すること。)				2	2	2	18	32
	歯学部		2		10 (「人文科学系科目」及び「社会科学系科目」からそれぞれ2単位以上を履修し、計10単位を修得すること。)				2	2	2	20	38
	薬学部		2		6				2	2	2	18	32
	理学部	数学科	2	*	6 (ただし「自然科学系」科目は、卒業要件外とする)				*	2	2	25	37
		物理学科	2		6 (ただし「自然科学系」科目は、卒業要件外とする)					2	2	25	37
		化学科	2		6 (ただし「自然科学系」科目は、卒業要件外とする)					2	2	25	37
		生物科学科	2		6 (ただし「自然科学系」科目は、卒業要件外とする)					2	2	24	36
	基礎工学部	電子物理科学科	2		6				*	2	2	23	35
		化学応用科学科	2		6					2	2	20	32
		システム科学科	2		6					2	2	20	32
		情報科学科	2		6					2	2	18	30
	工学部	応用自然科学科	2		4				*	2	2	24	34
		応用理工学科	2		4					2	2	26	36
		電子情報工学科	2		4					2	2	20	30
		環境・エネルギー工学科	2		4					2	2	26	36
		地球総合工学科	2		4					2	2	26	36

(次ページに続く)

\*アドヴァンスト・セミナーの修得単位の取り扱い、学部発行の便覧等にて確認すること。

\*高度教養教育科目の修得単位の取り扱い、「付録3 全学共通教育科目 科目一覧表」該当箇所及び学部発行の便覧等にて確認すること。

## (国際性涵養教育系科目)

科目 カテゴリー	学科・専攻等	国際性涵養教育系科目					合計
		マルチリンガル教育科目					全学共通教育科目
		第1外国語		第2外国語	選択外国語	グローバル理解	国際性涵養教育系科目
		総合英語	実践英語				
学部							
文学部		6	2	4	4	8	24
人間科学部		6	2	4	3	4	19
外国語学部		4	2	—	—	—	6
法学部		6	2	4	—	4	16
経済学部		6	2	4	—	4	16
医学部医学科		6	2	3	—	6	17
医学部保健学科	看護学専攻	6	2	3	—	4	15
	放射線技術科学専攻	6	2	3	—	4	15
	検査技術科学専攻	6	2	3	—	4	15
歯学部		6	2	3	—	6	17
薬学部		6	2	3	—	6	17
理学部	数学科	6	2	3	—	2	13
	物理学科	6	2	3	—	2	13
	化学科	6	2	3	—	2	13
	生物科学科	6	2	3	—	2	13
基礎工学部	電子物理科学科	6	2	3	—	2	13
	化学応用科学科	6	2	3	—	2	13
	システム科学科	6	2	3	—	2	13
	情報科学科	6	2	3	—	2	13
工学部	応用自然科学科	6	2	3	—	4	15
	応用理工学科	6	2	3	—	4	15
	電子情報工学科	6	2	3	—	4	15
	環境・エネルギー工学科	6	2	3	—	4	15
	地球総合工学科	6	2	3	—	4	15

教養教育系科目・専門教育系科目（専門基礎教育科目）履修登録方法

（用語注）

- ・「履修希望（抽選）登録」を、本頁では「**抽選登録**」といいます。
- ・「履修追加（先着順）登録」を、本頁では「**先着順登録**」といいます。
- ・「**自動登録**」とは、履修するクラスが予め決まっているので、手続を要さず履修登録されるものです。

分類	科目区分	正規配当の場合		再履修等（正規配当の学期以降で履修することの場合）	
		履修手続	説明	履修手続	説明
教養教育系科目	学問への扉	KOAN	・ <b>抽選登録</b> を行ってください。失念した場合は、自動的にクラスが決定されます。 ・「学問への扉」は1年次春～夏学期の必修科目です。	KOAN	・ <b>抽選登録</b> 又は <b>先着順登録</b> を行ってください。
	アドヴァンスト・セミナー 基盤教養教育科目	KOAN	・ <b>抽選登録</b> 又は <b>先着順登録</b> を行ってください。 ※経、医医、歯、医保（看）1年次の必修科目については、自動登録されます。	KOAN	・ <b>抽選登録</b> 又は <b>先着順登録</b> を行ってください。
	高度教養教育科目	KOAN	・2年次秋学期以降に履修する授業科目です（1年生は受講できません。） ・ <b>抽選登録</b> 又は <b>先着順登録</b> を行ってください。 ※医歯薬3年次の必修科目については、自動登録されます。	KOAN	・ <b>抽選登録</b> 又は <b>先着順登録</b> を行ってください。
	情報教育科目	不要	必修科目ですので、 <b>自動登録</b> されます。	KOAN	・ <b>先着順登録</b> を行ってください。 ・受講対象を限定しているため、再履修でも受講できない授業科目があります。
	健康・スポーツ教育科目	KOAN	1年次 春～夏学期 ・新入生は、全学教育推進機構HP新入生向けページ内の「はじめの履修登録」から科目別の履修方法「健康・スポーツ教育科目」を確認の上、 <b>抽選登録</b> を行ってください。失念した場合は、自動的にクラスが決定されます。 1年次 秋～冬学期 ・春～夏学期に単位修得した1年生で、再度、健康・スポーツ教育科目の履修を希望する学生は、 <b>抽選登録</b> を行ってください。	KOAN	1年次 秋～冬学期 ・春～夏学期に単位修得できなかった1年生は <b>抽選登録</b> を行ってください。 2年次 春～夏学期以降 ・ <b>先着順登録</b> を行ってください。
専門教育系科目	専門基礎教育科目（必修）	不要	・原則として、 <b>自動登録</b> されます。	KOAN （例外有）	・ <b>抽選登録</b> 又は <b>先着順登録</b> を行ってください。 ・実験科目の中には、先着順登録はKOANIによらない科目もあります。 詳細は別途掲示等にて周知します。
	専門基礎教育科目 （選択必修）・（選択）	KOAN	・ <b>抽選登録</b> 又は <b>先着順登録</b> を行ってください。 ・学科や学籍番号で指定されている場合は、該当クラスを登録してください。 ※各学部の取扱いによって、必修ではないが先行して履修登録されている科目もあります。		

（留意事項）

- ・上記は2026年4月現在の履修手続を示しています。変更する可能性もありますので、各学期前に掲示される履修手続案内を必ず確認してください。
- ・抽選結果発表段階でその授業科目の履修者数が定員に達し、以後の先着順登録期間では追加登録が困難となる場合があります。再履修等で、希望する曜日時限に開講するクラスがすべて追加登録できない場合がありますので、必ず履修希望（抽選）登録段階から履修手続を行ってください。



## 付録3 全学共通教育科目 科目一覧表

本表は、全学共通教育科目が学部・学科・専攻等にどのように配当されているかを科目区分ごとにまとめたものです。

科目表中、各科目に付されている表中の記号は、次のとおりです。

◎	必修科目	必ず履修するように指定された科目
※	選択必修科目	各区分ごとに付された条件に従い、選択して履修する科目
○	選択科目	各区分ごとに選択して履修する科目
*	特殊な取り扱いがある科目	学部によって特殊な取り扱いがある科目です。詳細は付録4「学部毎 特定の科目に係る履修上の定め」にて取り扱いを確認してください。
空欄灰色	卒業要件に算入されない科目	

必要単位数を超えて修得した単位については、所属学部において卒業要件の単位として算入できる場合があります。詳細は、各学部発行の便覧等で確認してください。

### 1. 学問への扉

科目名	単位数	文	人	外	法	経	医	医	医	保	歯	薬	理	基	工
学問への扉	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
学問への扉 必要単位数		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

### 2. 基盤教養教育科目(人文)

区分	科目名	単位数	文	人	外	法	経	医	医	医	保	歯	薬	理	基	工
人文	世界の思想	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	哲学の基礎 A	2	○	○	○	○	*	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	哲学の基礎 B	2	○	○	○	○	*	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	倫理学の基礎	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	中国哲学基礎	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	インド学の基礎	2	*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	美学	2	*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	文芸学	2	*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	音楽学	2	*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	演劇学	2	*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	東洋美術史	2	*	*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	西洋美術史	2	*	*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	芸術の実践	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	芸術の場所	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	芸術の世界	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	芸術の歴史	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	日本文学研究入門	2	*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	日本文学の名作を読む	2	*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	日本の文学 A	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
日本の文学 B	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
日本の文学 C	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

2. 基盤教養教育科目(続き:人文)

区分	科目名	単位数	文	人	外	法	経	医医	医保	歯	薬	理	基	工
人文	日本の文学 D	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	日本の文学 E	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	比較文学入門	2	*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	中国語圏の文学 A	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	中国語圏の文学 B	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	中国古典入門	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	中国の文学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	英米文学入門	2	*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ドイツの文化・芸術	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	フランス文学入門	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	外国の文学を知る	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	西洋の文学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	教養としての日本語	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	日本語学基礎	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	国語学入門	2	*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	英語学の基礎 A	2	*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	英語学の基礎 B	2	*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	英語学の基礎 C	2	*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	世界史の考え方	2	*	*	○	○	*	○	○	○	○	○	○	○
	歴史学の考え方	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	日本史の考え方	2	○	*	○	○	*	○	○	○	○	○	○	○
	日本史の話題	2	○	*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	アジア史学基礎 A	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	アジア史学基礎 B	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	西洋史学基礎 A	2	*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	西洋史学基礎 B	2	*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	考古学基礎	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	日本学基礎	2	*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	マイノリティを読む	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	現代の差別を考える	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	日本学の最前線	2	*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ことばの学問入門	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	アジアの文化と社会を知る A	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
アジアの文化と社会を知る B	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
アジアの文化と社会を知る C	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
アジアの文化と社会を知る D	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
アジアの文化と社会を知る E	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

2. 基盤教養教育科目(続き:人文)

区分	科目名	単位数	文	人	外	法	経	医	医	医	保	歯	薬	理	基	工
人文	アジアの文化と社会を知る F	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	アジアの文化と社会を知る G	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	アジアの文化と社会を知る H	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	アジアの文化と社会を知る I	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	アジア言語文化研究入門 A	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	アジア言語文化研究入門 B	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	アフリカの文化と社会を知る	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	アフリカ言語文化研究入門	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ユーラシアの文化と社会を知る A	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ユーラシアの文化と社会を知る B	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	欧米の政治・経済事情	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	欧米の文化と社会を知る A	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	欧米の文化と社会を知る B	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	欧米の文化と社会を知る C	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	欧米の文化と社会を知る D	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	欧米の文化と社会を知る E	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	欧米の文化と社会を知る F	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	欧米の文化と社会を知る G	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	欧米言語文化研究入門 A	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	欧米言語文化研究入門 B	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	中東の文化と社会を知る A	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	中東の文化と社会を知る B	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	中東の文化と社会を知る C	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	中東言語文化研究入門	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	言語社会研究入門	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	日本語・日本文化を考える A	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	日本語・日本文化を考える B	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	日本語・日本文化を考える C	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	日本語・日本文化を考える D	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	日本語・日本文化を考える E	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	人間学の考え方	2	○	*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	人間学の話題	2	○	*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ちがいをたのしむ	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
科学技術と倫理的・法的・社会的課題	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
Cross Cultural Psychology	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
基盤教養教育科目(人文) 必要単位数			-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	

2. 基盤教養教育科目(社会)

区分	科目名	単位数	文	人	外	法	経	医医	医保(看)	医保(放・検)	歯	薬	理	基	工
社会	行動学の考え方	2	○	*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	心理・行動科学入門	2	*	*	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○
	感情・人格心理学	2	○	*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	行動学の話題	2	○	*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	心理学基礎実験	2	○	*	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○
	社会学の考え方	2	*	*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	社会思想史	2	○	*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	現代文化論	2	○	*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	現代社会を読み解く	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	現代社会論	2	○	*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	社会科学のための確率統計	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	社会学の話題	2	○	*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	アジアの途上国における開発と協力	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	法学の話題	2	○	*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	日本国憲法	2	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
	法の世界	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	法学の考え方	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	国際社会の法を考える	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	知的財産モラル	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	政治学の話題	2	○	*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	政治の世界	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	現代社会における法と政治	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	国際社会における法と政治	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	現代の法と政治を考える	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	マクロ経済学の考え方	2	*	○	○		◎	○	○	○	○	○	○	○	○
	ミクロ経済学の考え方	2	○	○	○		◎	○	○	○	○	○	○	○	○
	経済の世界	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	経済現象を読み解く	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	平和の問題を考える	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	Japan in the World	2	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○		
Introduction to Social Psychology	2	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○			
Politics in Post-War Japan	2	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○			
Media Sociology	2	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○			
基盤教養教育科目(社会) 必要単位数		-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-

## 2. 基盤教養教育科目(自然)

区分	科目名	単位数	文	人	外	法	経	医医	医保	歯	薬	理	基	工
自然	現代数学の基礎	2	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○
	数学の考え方	2	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○
	現代物理学の基礎	2	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○
	物理学の考え方	2	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○
	宇宙地球科学の考え方	2	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○
	化学の考え方	2	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○
	化学の話題	2	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○
	グラフィックスの世界	2	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○
	グラフィックスの基礎	2	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○
	生命機能学の基礎	2	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○
	現代生命科学の基礎	2	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○
	生物学を考える	2	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○
	生命科学の世界	2	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○
	認知脳科学への誘い	2	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○
	環境科学の基礎	2	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○
	口の健康科学	2	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○
	健康・医療イノベーション学	2	○	○	○	○	○	◎	○	◎	○		○	○
	健康・医療の基礎	2	○	○	○	○	○	◎	○	◎	○		○	○
	健康科学の考え方	2	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○
人の老化を考える	2	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○	
基盤教養教育科目(自然) 必要単位数		-	-	-	-	-	4	-	4	-		-	-	

## 2. 基盤教養教育科目(総合)

区分	科目名	単位数	文	人	外	法	経	医医	医保	歯	薬	理	基	工
総合	現代文化を読み解く	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	思考の世界	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	哲学の考え方	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	人文地理学の考え方	2	○	*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	人文地理学の話題	2	○	*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	遊牧民の文化と社会を知る	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	現代差別論	2	○	*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	課題から考える知と社会のコミュニケーションデザイン	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	科学技術の問題を考える	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	現代日本の教育問題	2	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	共生学の話題	2	○	*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	現代人権論	2	○	*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	コンピュータアルゴリズム入門	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	コンピュータシステムの原理	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

2. 基盤教養教育科目(続き:総合)

区分	科目名	単位数	文	人	外	法	経	医医	医保	歯	薬	理	基	工
総合	計算機シミュレーション入門	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	情報探索入門	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	現代の脳科学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	現代のスポーツサイエンス	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	現代の医療と生命を考える	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	現代社会における健康科学の考え方	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	心とメンタルヘルス	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	現代の環境を考える	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	世界は今	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	世界の事情を英語で学ぶ	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	Basic Learning Skills 1	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	Basic Learning Skills 2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	文理融合に向けた数理科学 I	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	文理融合に向けた数理科学 II	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	数理モデリングの基礎	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	科学・技術と情報の最前線	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	データ科学のための数理	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	データ解析の実際	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	工学と現代数学の接点	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	病気のバイオサイエンス I	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	病気のバイオサイエンス II	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	今、がんは	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	大阪大学の歴史	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	知性への誘い	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	震災の知・復興の知	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	福島での環境放射線実習	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	現代キャリアデザイン論 I	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	放射線の自然科学、社会学、人文学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	共生社会とアクセシビリティを考える	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	データサイエンスの基礎 I	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	データサイエンスの基礎 II	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	数理・データサイエンス・AI活用PBL	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	情報と社会	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	データ・AIエンジニアリング基礎	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
データサイエンスのためのプログラミング入門	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カーボンニュートラルと私たちの未来	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ダイバーシティ&インクルージョンの世界	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
阪大SDGs学入門	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
大阪の防災ー南海トラフ巨大地震・津波からあなたの身の守り方を学ぶ	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

2. 基盤教養教育科目(続き:総合)

区分	科目名	単位数	文	人	外	法	経	医医	医保	歯	薬	理	基	工
総合	Chemistry and Society	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	SDGs+Beyondに向けた新しい共感・共助の経済づくり	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	実践的危機管理入門	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	万博スタディーズ	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	過去・現在・未来を見つめる科学技術史—第三次産業革命から考える—	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	「グローバル人材」について考える	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	アクセシビリティ入門	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	基盤教養教育科目(総合) 必要単位数		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
基盤教養教育科目(全体) 必要単位数合計			P.26 全学共通教育科目に係る卒業要件単位数一覧表を確認してください。											

3. 高度教養教育科目

高度教養教育科目は、下記に例示する全学共通教育科目のほか、各学部からも開講されています。必要単位数は各学部発行の便覧等にて確認してください。

ただし、医学部・歯学部・薬学部においては全学共通教育科目にて必修科目が開講されており、当該科目の修得により卒業に必要な単位数を満たすことができます。

科目名	単位数	文	人	外	法	経	医医	医保	歯	薬	理	基	工
科学的思考のための化学実験	1	○	○	○	○	○							
現代の生命倫理・法・経済を考える	2	○	○			○	◎	◎	◎	◎			*
アドヴァンスト情報リテラシー	2	○	○	○	○	○				○	○	*	○
データ科学と意思決定	2	○	○	○	○	○				○	○	*	○
GIS(地理情報システム)入門	2	○	○	○	○	○				○	○	*	○
研究者が知っておくべき知的財産と法律の知識	2	○	○	○	○	○				○	○	*	○
“見る”を神経科学するⅠ	1	○	○	○	○	○				○	○	*	○
“見る”を神経科学するⅡ	1	○	○	○	○	○				○	○	*	○
”みんなの筋肉体操”を科学する	1	○	○	○	○	○				○	○	*	○
ウォーキング・ノルディックウォーキングの科学	1	○	○	○	○	○				○	○	*	○
身体活動と運動疫学	1	○	○	○	○	○				○	○	*	○
スポーツ栄養とコンディショニング	1	○	○	○	○	○				○	○	*	○
ウェイトコントロールの科学的実践	1	○	○	○	○	○				○	○	*	○
体力・筋力トレーニング基礎・実践	1	○	○	○	○	○				○	○	*	○
脳情報学基礎Ⅰ	1	○	○	○	○	○				○	○	*	○
健康科学のための人工知能学基礎	1	○	○	○	○	○				○	○	*	○
スポーツ科学のための人工知能学基礎	1	○	○	○	○	○				○	○	*	○
運動器の解剖と機能	1	○	○	○	○	○				○	○	*	○
スポーツに役立つテーピング 上肢編	1	○	○	○	○	○				○	○	*	○
運動に伴う心血管系・心肺機能の変化	1	○	○	○	○	○				○	○	*	○
スポーツに関連する内科的疾患	1	○	○	○	○	○				○	○	*	○
バイオメカニクス基礎Ⅰ(キネマティクス:運動学)	1	○	○	○	○	○				○	○	*	○

### 3. 高度教養教育科目(続き)

バイオメカニクス基礎Ⅱ(関節運動)	1	○	○	○	○	○				○	○	*	○
バイオメカニクス基礎Ⅲ(生体組織)	1	○	○	○	○	○				○	○	*	○
バイオメカニクス基礎Ⅳ(キネティクス:運動力学)	1	○	○	○	○	○				○	○	*	○
臨床バイオメカニクス(正常と疾患の関節運動)	1	○	○	○	○	○				○	○	*	○
医工連携で学ぶ生体組織バイオメカニクス応用	1	○	○	○	○	○				○	○	*	○
健康科学1	1	○	○	○	○	○				○	○	*	○
健康科学2	1	○	○	○	○	○				○	○	*	○
脳とからだのつながり:仕組みを知れば意識が変わる	1	○	○	○	○	○				○	○	*	○
身体運動の心理生理学	1	○	○	○	○	○				○	○	*	○
精神・身体健康増進医学各論	1	○	○	○	○	○				○	○	*	○
全学共通教育科目に係る 高度教養教育科目 必要単位数		-	-	-	-	-	2	2	2	2	-	-	-

#### 4. 情報教育科目

科目名	単位数	文	人	外	法	経	医	医	医保 (看)	医保 (放・ 検)	歯	薬	理	基	工	
情報社会基礎	2	◎	◎	◎	◎	◎			◎							
情報科学基礎	2						◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎		
情報科学基礎 A	2															◎(然)
情報科学基礎 B	2															◎(理)
情報科学基礎 C	2															◎(電)
情報科学基礎 D-I	2															◎(地-船)
情報科学基礎 D-II	2															◎(地-社)
情報科学基礎 D-III	2															◎(地-建)
情報科学基礎 E	2															◎(環)
<b>情報教育科目 必要単位数</b>		<b>2</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>2</b>

#### 5. 健康・スポーツ教育科目

科目名	単位数	文	人	外	法	経	医	医	医保	歯	薬	理	基	工
スマート・スポーツリテラシー	2	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※
スマート・ヘルスリテラシー	2	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※
<b>健康・スポーツ教育科目 必要単位数</b>		<b>2</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>2</b>

#### 6. アドヴァンスト・セミナー

科目名	単位数	文	人	外	法	経	医	医	医保	歯	薬	理	基	工
地域活動と対話	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
地域活動と対話2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
コントラクトブリッジで考える力をつけよう	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
リーダーシップを考える	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
キャンパスデザインプロジェクト	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
学術的文章の作法	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
キャリアデザインと公共哲学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
多文化コミュニケーションセミナー II	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
福島県飯館村環境放射線実習	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Introduction to International Education	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
デザインアートプロジェクト入門	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
試してわかる物理学入門	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
オン・キャンパス・インターンシップ: 未来の「はたらく」を考える	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
キャリアデザインと社会実装 I ~問いの創出~	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
キャリアデザインと社会実装 II ~問いの実践~	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
物理学の名著を読む	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
アカデミック・リテラシー入門	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
データサイエンスによる課題解決入門	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

6. アドヴァンスト・セミナー(続き)

科目名	単位数	文	人	外	法	経	医	医	医	保	歯	薬	理	基	工
ソフトウェアシステム開発をしてみよう	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
オン・キャンパス・インターンシップ:総合商社のビジネス・キャリア・サステナビリティ	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ソーシャルソリューション未来体験ラボ～ボード・カードゲームで人と社会を体感・創造～	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
動物の行動学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
北フリジア語を学ぼう	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ピア・サポート入門 ※ 不 開 講	2	⊖	⊖	⊖	⊖	⊖	⊖	⊖	⊖	⊖	⊖	⊖	⊖	⊖	⊖
欧米言語文化セミナー	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
モンゴル遊牧民の文化を科学の言葉に翻訳する	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
子どもの居場所と共感経済:ボランティア実践と理論	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
北欧の文化と社会を考えるー比較と対話のアプローチー	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
アドヴァンスト・セミナー 必要単位数	P.26 全学共通教育科目に係る卒業要件単位数一覧表を確認してください。														





## 8. マルチリンガル教育科目

### (1) 総則

#### ① 「積重ね科目」について

全学共通教育科目においては、原則として同一名称の科目を重複して履修することはできませんが、マルチリンガル教育科目の一部には、同一名称の科目を重複して履修することができる科目があります。そうした科目を「積重ね科目」といいます(科目表中で科目名の背景が灰色になっており、末尾に数字(1、2、3、…)がついています)。

これらの「積重ね科目」は、学部や科目ごとに履修できる上限数が指定されており、みなさんはその範囲内で同一名称の科目を重複して履修することができます。

「積重ね科目」は、シラバスや授業時間表等には数字を省略した授業科目名が記載されていますが、みなさんが単位を修得した順に成績管理のコンピュータ処理により自動的に数字が付番され、学籍簿には数字の付いた正式な科目名が記録されます。

#### ② 各学期に履修する科目について

各学期に履修する授業の組み合わせは予め決定しています。各区分の[学期ごとに配当されている科目]を参照してください。

この組み合わせの中で、希望する授業科目について履修希望(抽選)登録できるものもあれば、予め履修登録されているものもあります(P.29 国際性涵養教育系科目(マルチリンガル教育科目)履修登録方法参照)。

再履修等の場合は、必修(必要)単位数を上限として、[学期ごとに配当されている科目]によらず選択し、自身で履修希望(抽選)登録又は履修追加(先着順)登録が必要となります(実践英語も含む)。

#### ③ 同一内容の授業の履修禁止について

履修登録の際、すでに単位を修得した授業あるいは当該学期で履修中の授業と同じテキストを使用する授業は絶対に希望しないでください(ただし、シラバス等において、授業で扱う章、ページ数などが明記しており、すでに単位を修得した授業あるいは当該学期で履修中の授業と異なる場合は受講が可能です)。また、自動的に当該クラスに配当されてしまった場合は、必ずすみやかにマルチリンガル教育教務係窓口(※)まで申し出てください。

また、教科書を使用しない授業の場合であっても、同一教員による同一内容の授業を繰り返し履修して単位を積み重ねることはできません。あらかじめシラバスをよく確認して履修登録してください。一週間で複数の同一語学を履修する場合、自動的に同じ教員の授業に複数配当されることがあります。その場合には、すみやかにシラバスを再確認し、当該教員にもコンタクトをとることで、授業内容が明確に異なることを確認してください。もし同一の授業内容であった場合には、必ずただちにマルチリンガル教育教務係窓口(※)まで申し出てください。

※マルチリンガル教育教務係窓口は全学教育推進機構教務係と同じ場所・業務時間です。

#### ④ 履修上の特例措置について

英語を母語とする外国人留学生及び特別な理由のある者については、第1外国語履修に当たり特例を認める場合があります。所属学部発行の学生便覧等で確認してください。

(2) 第1外国語

区分	科目名	単位数	学部											備考	
			文	人	外	法	経	医医	医保	歯	薬	理	基		工
総合英語	総合英語1	1	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	総合英語1～6についてはそれぞれの科目に「総合英語 (Project-based English)」「総合英語 (Content-based English)」「総合英語 (Liberal Arts & Sciences)」「総合英語 (Performance Workshop)」「総合英語 (Academic Skills)」の多様に展開されるサブカテゴリーの授業科目から選択する。
	総合英語2	1	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	総合英語3	1	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	総合英語4	1	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	総合英語5	1	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	総合英語6	1	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	総合英語I	1			◎										
	総合英語II	1			◎										
	総合英語III	1			◎										
	総合英語IV	1			◎										
必修単位数(小計)		—	6	6	4	6	6	6	6	6	6	6	6		
実践英語	実践英語1	1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	「実践英語(e-learning入門)」及び「実践英語(e-learning応用)」の2つの授業科目を履修する必要がある。	
	実践英語2	1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	必修単位数(小計)		—	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
必修単位数(合計)			8	8	6	8	8	8	8	8	8	8	8		

【学期ごとに配当されている科目】

原則として、学期ごとに下記のとおり履修する科目が予め指定されています。再履修等の場合を除き、この配当に従って履修しなければなりません。

文法経理基工

1年次(春～夏)		1年次(秋～冬)		2年次(春～夏)		2年次(秋～冬)	
単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名
2	総合英語 総合英語	3	総合英語 総合英語 実践英語	2	総合英語 実践英語	1	総合英語

人医歯薬

1年次(春～夏)		1年次(秋～冬)		2年次(春～夏)		2年次(秋～冬)	
単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名
2	総合英語 総合英語	3	総合英語 総合英語 実践英語	3	総合英語 総合英語 実践英語		—

外

1年次(春～夏)		1年次(秋～冬)		2年次(春～夏)		2年次(秋～冬)	
単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名
2	総合英語 I 総合英語 III	3	総合英語 II 総合英語 IV 実践英語	1	実践英語		—

### (3) 第2外国語

各言語の上級クラスは、2年次（春～夏学期）から履修できます。

ただし、第2外国語の必要単位としては、下表の「○」を付した科目から単位修得が必要となります（上級の修得をもって初級及び中級の単位に代えることはできません。）。

日本語は、外国人留学生のみが履修できます。

	科目名	単位数	学部										
			文	人	外	法	経	医	歯	薬	理	基	工
ドイツ語	ドイツ語初級Ⅰ	Ⅰ	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
	ドイツ語初級Ⅱ	Ⅰ	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
	ドイツ語中級Ⅰ	Ⅰ	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
	ドイツ語中級Ⅱ	Ⅰ	○	○		○	○						
	ドイツ語上級Ⅰ	Ⅰ	*	*		*	*				*		
	ドイツ語上級Ⅱ	Ⅰ	*	*		*	*				*		
	ドイツ語上級Ⅲ	Ⅰ	*	*		*	*				*		
	ドイツ語上級Ⅳ	Ⅰ	*	*		*	*				*		
フランス語	フランス語初級Ⅰ	Ⅰ	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
	フランス語初級Ⅱ	Ⅰ	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
	フランス語中級Ⅰ	Ⅰ	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
	フランス語中級Ⅱ	Ⅰ	○	○		○	○						
	フランス語上級Ⅰ	Ⅰ	*	*		*	*				*		
	フランス語上級Ⅱ	Ⅰ	*	*		*	*				*		
	フランス語上級Ⅲ	Ⅰ	*	*		*	*				*		
	フランス語上級Ⅳ	Ⅰ	*	*		*	*				*		
ロシア語	ロシア語初級Ⅰ	Ⅰ	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
	ロシア語初級Ⅱ	Ⅰ	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
	ロシア語中級Ⅰ	Ⅰ	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
	ロシア語中級Ⅱ	Ⅰ	○	○		○	○						
	ロシア語上級Ⅰ	Ⅰ	*	*		*	*				*		
	ロシア語上級Ⅱ	Ⅰ	*	*		*	*				*		
	ロシア語上級Ⅲ	Ⅰ	*	*		*	*				*		
	ロシア語上級Ⅳ	Ⅰ	*	*		*	*				*		
中国語	中国語初級Ⅰ	Ⅰ	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
	中国語初級Ⅱ	Ⅰ	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
	中国語中級Ⅰ	Ⅰ	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
	中国語中級Ⅱ	Ⅰ	○	○		○	○						
	中国語上級Ⅰ	Ⅰ	*	*		*	*				*		
	中国語上級Ⅱ	Ⅰ	*	*		*	*				*		
	中国語上級Ⅲ	Ⅰ	*	*		*	*				*		
	中国語上級Ⅳ	Ⅰ	*	*		*	*				*		

(3) 第2外国語(続き)

	科目名	単位数	学部											
			文	人	外	法	経	医	歯	薬	理	基	工	
朝鮮語	朝鮮語初級Ⅰ	1	○	○										
	朝鮮語初級Ⅱ	1	○	○										
	朝鮮語中級Ⅰ	1	○	○										
	朝鮮語中級Ⅱ	1	○	○										
スペイン語	スペイン語初級Ⅰ	1	○	○										
	スペイン語初級Ⅱ	1	○	○										
	スペイン語中級Ⅰ	1	○	○										
	スペイン語中級Ⅱ	1	○	○										
イタリア語	イタリア語初級Ⅰ	1	○											
	イタリア語初級Ⅱ	1	○											
	イタリア語中級Ⅰ	1	○											
	イタリア語中級Ⅱ	1	○											
日本語	総合日本語Ⅰ	1	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
	総合日本語Ⅱ	1	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
	総合日本語Ⅲ	1	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
	総合日本語Ⅳ	1	○	○		○	○							
	専門日本語Ⅰ	1	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
	専門日本語Ⅱ	1	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
	専門日本語Ⅲ	1	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
	専門日本語Ⅳ	1	○	○		○	○							
必要単位数			4	4	-	4	4	3	3	3	3	3	3	

【学期ごとに配当されている科目】

原則として、学期ごとに下記のとおり履修する科目が予め指定されています。  
再履修等の場合を除き、この配当に従って履修しなければなりません。

第2外国語【ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・朝鮮語・スペイン語・イタリア語】

	1年次(春～夏)	1年次(秋～冬)	2年次(春～夏)	2年次(秋～冬)
文	○○語初級Ⅰ	○○語初級Ⅱ	○○語中級	○○語中級
人	○○語初級Ⅰ	○○語初級Ⅱ	○○語中級(注)	-
外	-			
法	○○語初級Ⅰ	○○語初級Ⅱ	○○語中級	○○語中級
経	○○語初級Ⅰ	○○語初級Ⅱ	○○語中級	○○語中級
医	○○語初級Ⅰ	○○語初級Ⅱ	○○語中級	-
歯	○○語初級Ⅰ	○○語初級Ⅱ	○○語中級	-
薬	○○語初級Ⅰ	○○語初級Ⅱ	○○語中級	-
理	○○語初級Ⅰ	○○語初級Ⅱ	○○語中級	-
基	○○語初級Ⅰ	○○語初級Ⅱ	○○語中級	-
工	○○語初級Ⅰ	○○語初級Ⅱ	○○語中級	-

(注) 人間科学部の学生は、2年次(春～夏学期)に2単位(中級を2科目)修得してください。

第2外国語【日本語】

日本語を選択した外国人留学生は、原則として各年次・学期に「総合日本語」「専門日本語」のどちらかから1科目を選び、各学部で定められた必要単位数を修得してください。

(4) 選択外国語

	科目名	単位数	学部	
			文	人
第1外国語	英語選択1	1	○	○
	英語選択2	1	○	○
	英語選択3	1	○	○
	英語選択4	1	○	*
第2外国語	ドイツ語初級Ⅰ選択	1	○	○
	ドイツ語初級Ⅱ選択	1	○	○
	ドイツ語中級選択Ⅰ	1	○	○
	ドイツ語中級選択Ⅱ	1	○	*
	フランス語初級Ⅰ選択	1	○	○
	フランス語初級Ⅱ選択	1	○	○
	フランス語中級選択Ⅰ	1	○	○
	フランス語中級選択Ⅱ	1	○	*
	ロシア語初級Ⅰ選択	1	○	○
	ロシア語初級Ⅱ選択	1	○	○
	ロシア語中級選択Ⅰ	1	○	○
	ロシア語中級選択Ⅱ	1	○	*
	中国語初級Ⅰ選択	1	○	○
	中国語初級Ⅱ選択	1	○	○
	中国語中級選択Ⅰ	1	○	○
	中国語中級選択Ⅱ	1	○	*
第3外国語	ラテン語初級Ⅰ選択	1	○	○
	ラテン語初級Ⅱ選択	1	○	○
	ラテン語中級Ⅲ選択	1	○	○
	ラテン語中級Ⅳ選択	1	○	*
	ギリシャ語初級Ⅰ選択	1	○	○
	ギリシャ語初級Ⅱ選択	1	○	○
	ギリシャ語中級Ⅲ選択	1	○	○
	ギリシャ語中級Ⅳ選択	1	○	*
必要単位数			4	3

【学期ごとに配当されている科目】

原則として、学期ごとに下記のとおり履修する科目が予め指定されています。再履修等の場合を除き、この配当に従って履修しなければなりません。

選択外国語

[英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語]

	文	人
1年次 (春～夏)	英語選択 又は ○○語初級Ⅰ選択	英語選択 又は ○○語初級Ⅰ選択
1年次 (秋～冬)	英語選択 又は ○○語初級Ⅱ選択	英語選択 又は ○○語初級Ⅱ選択
2年次 (春～夏)	英語選択 又は ○○語中級選択	英語選択 又は ○○語中級選択
2年次 (秋～冬)	英語選択 又は ○○語中級選択	—

選択外国語 [ギリシャ語、ラテン語]

	文	人
1年次 (春～夏)	○○語初級Ⅰ選択	○○語初級Ⅰ選択
1年次 (秋～冬)	○○語初級Ⅱ選択	○○語初級Ⅱ選択
2年次 (春～夏)	○○語中級Ⅲ選択	○○語中級Ⅲ選択
2年次 (秋～冬)	○○語中級Ⅳ選択	—

(5) グローバル理解

各自が履修する第2外国語に対応する科目から履修してください。  
日本語は、外国人留学生のみが履修できます。

科目名	単位数	学部												
		文	人	外	法	経	医	医	医	保	歯	薬	理	基
国際コミュニケーション演習(ドイツ語)1	2	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国際コミュニケーション演習(ドイツ語)2	2	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○		○
国際コミュニケーション演習(ドイツ語)3	2	○	○		○	○	○		○	○				
国際コミュニケーション演習(ドイツ語)4	2	○	○		○	○								
国際コミュニケーション演習(フランス語)1	2	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国際コミュニケーション演習(フランス語)2	2	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○		○
国際コミュニケーション演習(フランス語)3	2	○	○		○	○	○		○	○				
国際コミュニケーション演習(フランス語)4	2	○	○		○	○								
国際コミュニケーション演習(ロシア語)1	2	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国際コミュニケーション演習(ロシア語)2	2	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○		○
国際コミュニケーション演習(ロシア語)3	2	○	○		○	○	○		○	○				
国際コミュニケーション演習(ロシア語)4	2	○	○		○	○								
国際コミュニケーション演習(中国語)1	2	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国際コミュニケーション演習(中国語)2	2	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○		○
国際コミュニケーション演習(中国語)3	2	○	○		○	○	○		○	○				
国際コミュニケーション演習(中国語)4	2	○	○		○	○								
国際コミュニケーション演習(朝鮮語)1	2	○	○											
国際コミュニケーション演習(朝鮮語)2	2	○	○											
国際コミュニケーション演習(朝鮮語)3	2	○	○											
国際コミュニケーション演習(朝鮮語)4	2	○	○											
国際コミュニケーション演習(スペイン語)1	2	○	○											
国際コミュニケーション演習(スペイン語)2	2	○	○											
国際コミュニケーション演習(スペイン語)3	2	○	○											
国際コミュニケーション演習(スペイン語)4	2	○	○											
国際コミュニケーション演習(イタリア語)1	2	○												
国際コミュニケーション演習(イタリア語)2	2	○												
国際コミュニケーション演習(イタリア語)3	2	○												
国際コミュニケーション演習(イタリア語)4	2	○												
地域言語文化演習(ドイツ語)1	2	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
地域言語文化演習(ドイツ語)2	2	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○		○
地域言語文化演習(ドイツ語)3	2	○	○		○	○	○		○	○				
地域言語文化演習(ドイツ語)4	2	○	○		○	○								
地域言語文化演習(フランス語)1	2	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
地域言語文化演習(フランス語)2	2	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○		○
地域言語文化演習(フランス語)3	2	○	○		○	○	○		○	○				
地域言語文化演習(フランス語)4	2	○	○		○	○								
地域言語文化演習(ロシア語)1	2	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
地域言語文化演習(ロシア語)2	2	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○		○
地域言語文化演習(ロシア語)3	2	○	○		○	○	○		○	○				
地域言語文化演習(ロシア語)4	2	○	○		○	○								
地域言語文化演習(中国語)1	2	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
地域言語文化演習(中国語)2	2	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○		○
地域言語文化演習(中国語)3	2	○	○		○	○	○		○	○				
地域言語文化演習(中国語)4	2	○	○		○	○								

科目名	単位数	学部												
		文	人	外	法	経	医医	医保	歯	薬	理	基	工	
地域言語文化演習(朝鮮語)1	2	○	○											
地域言語文化演習(朝鮮語)2	2	○	○											
地域言語文化演習(朝鮮語)3	2	○	○											
地域言語文化演習(朝鮮語)4	2	○	○											
地域言語文化演習(スペイン語)1	2	○	○											
地域言語文化演習(スペイン語)2	2	○	○											
地域言語文化演習(スペイン語)3	2	○	○											
地域言語文化演習(スペイン語)4	2	○	○											
地域言語文化演習(イタリア語)1	2	○												
地域言語文化演習(イタリア語)2	2	○												
地域言語文化演習(イタリア語)3	2	○												
地域言語文化演習(イタリア語)4	2	○												
多文化コミュニケーション(日本語)1	2	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
多文化コミュニケーション(日本語)2	2	○	○		○	○	○	○	○	○	○			○
多文化コミュニケーション(日本語)3	2	○	○		○	○	○		○	○				
多文化コミュニケーション(日本語)4	2	○	○		○	○								
必要単位数		8	4		4	4	6	4	6	6	2	2		4

国際コミュニケーション演習、地域言語文化演習、多文化コミュニケーション(留学生のみ)は、学期ごとに下記のとおり履修できる単位数が指定されています。再履修等の場合を除き、原則として、この配当に従って履修しなければなりません。

学部	1年次 (春~夏)	1年次 (秋~冬)	2年次 (春~夏)	2年次 (秋~冬)	3年次以降
文	2単位	2単位	2単位	2単位	
人	2単位	2単位	(注)		
外	-				
法	2単位	2単位	(注)		
経	2単位	2単位	(注)		
医医	2単位	2単位	2単位		
医保	2単位	2単位			
歯	2単位	2単位	2単位		
薬	2単位	2単位	2単位		
理	2単位	(注)			
基	2単位				
工	2単位	2単位			

(太枠)は正規配当科目のある  
セメスターを表します

(注)人間科学部、法学部、経済学部、理学部のみなさんはグローバル理解科目(国際コミュニケーション演習、地域言語文化演習、多文化コミュニケーション)を、必要単位数を修得後も継続して履修することができます。必要単位数を超えて修得した単位は、それぞれの学部の規程によって、いわゆる自由選択の単位として認められることがあります。詳しくは各自所属学部の便覧等を確認してください。

(5) グローバル理解(続き)

特別外国語演習の修得をもって、国際コミュニケーション演習(各言語)、地域言語文化演習(各言語)、多文化コミュニケーション(日本語)の単位に代えることはできません。修得した単位の取り扱いは、「付録4-1 学部毎 特定の科目にかかる履修上の定め」にて確認してください。

科目名	単位数	学部												
		文	人	外	法	経	医	医	医保	歯	薬	理	基	工
特別外国語演習(広東語)I	2	*	*	*	*									
特別外国語演習(モンゴル語)I	2	*	*	*	*									
特別外国語演習(インドネシア語)I	2	*	*	*	*									
特別外国語演習(タイ語)I	2	*	*	*	*									
特別外国語演習(ベトナム語)I	2	*	*	*	*									
特別外国語演習(ビルマ語)I	2	*	*	*	*									
特別外国語演習(ヒンディー語)I	2	*	*	*	*									
特別外国語演習(ウルドゥー語)I	2	*	*	*	*									
特別外国語演習(トルコ語)I	2	*	*	*	*									
特別外国語演習(ハンガリー語)I	2	*	*	*	*									
特別外国語演習(デンマーク語)I	2	*	*	*	*									
特別外国語演習(デンマーク語)II	2	*	*	*	*									
特別外国語演習(スウェーデン語)I	2	*	*	*	*									
特別外国語演習(スウェーデン語)II	2	*	*	*	*									
特別外国語演習(ポルトガル語)I	2	*	*	*	*									
特別外国語演習(ポルトガル語)II	2	*	*	*	*									

付録4-1 学部毎 特定の科目に係る履修上の定め(専門基礎教育科目以外)

学部名	科目区分	科目名	内容
文	基盤教養教育科目(人文)	インド学の基礎	単位修得した場合、文学部の専門教育科目として取り扱われます。
		美学	
		文芸学	
		音楽学	
		演劇学	
		東洋美術史	
		西洋美術史	
		日本文学研究入門	
		日本文学の名作を読む	
		比較文学入門	
		英米文学入門	
		国語学入門	
		英語学の基礎A	
	英語学の基礎B		
	英語学の基礎C		
	世界史の考え方		
	西洋史学基礎A		
	西洋史学基礎B		
	日本学基礎		
	日本学の最前線		
	基盤教養教育科目(社会)	心理・行動科学入門	
		社会学の考え方	
		マクロ経済学の考え方	
第2外国語	上級クラス 全科目	第2外国語の単位とはなりませんが、文学部卒業要件の単位として算入できます。文学部発行の便覧等を確認してください。	
グローバル理解	特別外国語演習 全科目	グローバル理解の単位とはなりませんが、文学部卒業要件の単位として算入できます。文学部発行の便覧等を確認してください。	
人	基盤教養教育科目(人文)	東洋美術史	単位修得した場合、人間科学部の専門教育科目の単位として取り扱われます。人間科学部発行の便覧等を確認してください。
		西洋美術史	
		世界史の考え方	
		日本史の考え方	
		日本史の話題	
		人間学の考え方	
		人間学の話題	
	基盤教養教育科目(社会)	行動学の考え方	
		心理・行動科学入門	
		感情・人格心理学	
		行動学の話題	
		心理学基礎実験	
		社会学の考え方	
		社会思想史	
		現代文化論	
		現代社会論	
		社会学の話題	
	法学の話題		
	政治学の話題		
	基盤教養教育科目(総合)	人文地理学の考え方	
人文地理学の話題			
現代差別論			
共生学の話題			
現代人権論			

学部名	科目区分	科目名	内容
人	第2外国語	第2外国語 上級クラス	第2外国語の単位とはなりませんが、人間科学部卒業要件の単位として算入できます。人間科学部発行の便覧等を確認してください。
	選択外国語	英語選択4	必要単位数を超えて修得した単位は、人間科学部卒業要件の単位として算入できます。人間科学部発行の便覧等を確認してください。
		ドイツ語中級選択2、フランス語中級選択2、ロシア語中級選択2、中国語中級選択2 ラテン語中級IV選択、ギリシャ語中級IV選択	
グローバル理解	特別外国語演習 全科目	グローバル理解の単位とはなりませんが、人間科学部卒業要件の単位として算入できます。人間科学部発行の便覧等を確認してください。	
外	グローバル理解	グローバル理解 全科目	原則として特別外国語演習以外のグローバル理解を履修することはできませんが、第1外国語として英語以外の外国語の履修を許可された学生に関しては、特例として、特別外国語演習以外のグローバル理解を履修できる場合があります。また、特別外国語演習の単位を修得した場合、外国語学部の専門教育科目の単位として取り扱われます。ただし、自専攻語と同一の言語の科目は、履修できません。
法	第2外国語	第2外国語 上級クラス	第2外国語の単位とはなりませんが、法学部卒業要件の単位として算入できます。法学部発行の学生ハンドブックを確認してください。
	グローバル理解	特別外国語演習 全科目	グローバル理解の単位とはなりませんが、法学部卒業要件の単位として算入できます。法学部発行の学生ハンドブックを確認してください。
経	基盤教養教育科目(人文)	哲学の基礎A	単位修得した場合、経済学部の専門教育科目の選択科目(教職)として取り扱われます。選択科目(教職)は、経済学部の卒業要件の専門教育科目(選択科目)の単位には算入できませんが、自由選択科目の単位として算入できます。経済学部発行の便覧等を確認してください。
		哲学の基礎B	
世界史の考え方			
日本史の考え方			
	第2外国語	第2外国語 上級クラス	第2外国語の単位とはなりませんが、経済学部卒業要件の自由選択科目の単位として算入できます。経済学部発行の便覧等を確認してください。
歯	基盤教養教育科目	—	「人文科学系科目」及び「社会科学系科目」からそれぞれ2単位以上を履修し、計10単位を修得すること。
理	第2外国語	第2外国語 上級クラス	第2外国語の単位とはなりませんが、理学部卒業要件の単位として算入できます。理学部発行の便覧等を確認してください。
基	高度教養教育科目	—	基礎工学部開講科目にて2単位修得してください。 *全学共通教育科目の高度教養教育科目を修得した場合は、高度教養教育科目の単位に算入されますが、卒業に必要な単位にはなりません。
工	高度教養教育科目	現代の生命倫理・法・経済を考える	電子情報工学科の学生がこの科目を修得した場合、卒業に必要な単位にはなりません。

付録4-2 学部毎 特定の科目に係る履修上の定め(専門基礎教育科目)

学部学科	分野	科目表中記載	内容
文	統計学/国学	*	単位修得した場合、文学部の専門教育科目の単位となります。
人	数学	○	専門基礎教育科目の単位とはなりません、人間科学部卒業要件の単位として算入できます。
外	統計学、数学	*	単位修得した場合、外国語学部の専門教育科目の単位となります。
医医	統計学	※	「統計学B-I」または「統計学B-II」のいずれか1科目選択必修。
	物理学/化学	※	「基礎物理学実験」または「基礎化学実験」のいずれか1科目選択必修。
	数学/物理学/化学	※	「解析学概論」、「線形代数学概論」、「力学入門」または「力学通論」、「電磁気学入門」、「化学基礎論A」「化学熱力学」のなかから、4科目8単位を修得すること。なお、本学部に入学する際の入学試験において、物理を選択した者は、「物理学」の科目を履修する際には、「力学通論」を履修すること※電磁気学入門は履修可能
医保(看)	化学/生物学	※	「基礎化学実験」または「基礎生物学実験」のいずれかを選択し、1科目1単位を修得すること。
医保(放)	物理学	※	・次の履修方法(1)(2)のうち、いずれかを選択し履修すること。 (1)「力学入門」及び「電磁気学入門」を履修すること。 (2)「力学通論」及び「電磁気学通論」を履修すること。 ・大阪大学入学者選抜試験において「物理」を選択した者は(2)の組み合わせで履修すること。「物理」を選択しなかった者は(1)の組み合わせで履修すること。
医保(検)	物理学	※	・次の履修方法(1)(2)のうち、いずれかを選択し履修すること。 (1)「力学入門」及び「電磁気学入門」を履修すること。 (2)「力学通論」及び「電磁気学通論」を履修すること。 ・大阪大学入学者選抜試験において「物理」を選択した者は(2)の組み合わせで履修すること。「物理」を選択しなかった者は(1)の組み合わせで履修すること。
	物理学/生物学	※	「基礎物理学実験」または「基礎生物学実験」のいずれかを選択し、1科目1単位を修得すること。
歯	統計学	※	「統計学B-I」または「統計学B-II」のいずれか1科目を選択履修し、2単位を修得すること。
	物理学	※	「力学入門」と「電磁気学入門」または「力学通論」と「電磁気学通論」のいずれかを選択履修し、2科目4単位を修得すること。 ※「力学入門」および「電磁気学入門」は高校物理を履修していない者を対象とした科目である。高校物理を履修した者は「力学通論」および「電磁気学通論」の履修を強く期待する。
	化学	※	「基礎生化学」、「基礎有機化学」及び「化学熱力学」のうち、2科目を選択履修し、計4単位を修得すること。
薬	物理学	※	『「力学入門」または「力学通論」』及び『「電磁気学入門」または「電磁気学通論」』の2科目選択必修。 (薬学部に入学する際の入学試験において、物理を選択した者は、「力学通論」及び「電磁気学通論」を選択し、履修すること。)
理(数)	物理学	○注1	「力学通論」または「力学詳論I」の中から一つを選択科目として履修(ただし、物理非選択者は「力学入門」を選択科目として履修)。
		○注2	「電磁気学通論」または「電磁気学詳論I」の中から一つを選択科目として履修(ただし、物理非選択者は「電磁気学入門」を選択科目として履修)。
理(化)	物理学	※注3	物理選択者は「力学通論」または「力学詳論I」のいずれか1科目を選択必修。物理非選択者は「力学入門」を必修。
		※注4	物理選択者は「電磁気学通論」または「電磁気学詳論I」のいずれか1科目を選択必修。物理非選択者は「電磁気学入門」を必修。

学部学科	分野	科目表中記載	内容
理(生) 生物科学 コース	物理学	※注3	物理選択者は「力学通論」または「力学詳論Ⅰ」のいずれか1科目を選択必修。物理非選択者は「力学入門」を必修。
		※注4	物理選択者は「電磁気学通論」または「電磁気学詳論Ⅰ」のいずれか1科目を選択必修。物理非選択者は「電磁気学入門」を必修。
<p>「*数」は「数学推奨科目選択希望者」を、「*物」は「物理推奨科目選択希望者」を、「*化」は「化学推奨科目選択希望者」を、「*生」は「生物推奨科目選択希望者」を指す。</p> <p>※注3～注4の「物理選択者」、「物理非選択者」は、大阪大学入学者選抜試験（一般選抜（個別学力検査等及び大学入学共通テスト）、特別入試、総合型選抜・学校推薦型選抜）において受験した理科の科目を指す。</p>			
理(生) 生命科学 コース	数学	◎	<p>・数学推奨科目選択希望者もしくは物理推奨科目選択希望者は「基礎解析学・同演義Ⅰ」、「基礎解析学・同演義Ⅱ」、「線形代数学・同演義Ⅰ」、「線形代数学・同演義Ⅱ」を修得すること。また、化学推奨科目選択希望者もしくは生物推奨科目選択希望者は「基礎解析学Ⅰ」、「基礎解析学Ⅱ」、「線形代数学Ⅰ」、「線形代数学Ⅱ」を修得すること。</p> <p>【途中で推奨科目を変更する場合】</p> <p>・「基礎解析学・同演義Ⅰ」、「基礎解析学・同演義Ⅱ」、「線形代数学・同演義Ⅰ」、「線形代数学・同演義Ⅱ」を修得済みの数学推奨科目選択希望者もしくは物理推奨科目選択希望者が、化学もしくは生物に推奨科目を変更する場合、それぞれ「基礎解析学Ⅰ」、「基礎解析学Ⅱ」、「線形代数学Ⅰ」、「線形代数学Ⅱ」の単位を修得したと同等とする。ただし、変更後の1科目の単位数は2単位とみなし、余りの1単位は卒業要件にはならない。</p>
	物理学	※注3	物理選択者は「力学通論」または「力学詳論Ⅰ」のいずれか1科目を選択必修。物理非選択者は「力学入門」を必修。
		※注4	物理選択者は「電磁気学通論」または「電磁気学詳論Ⅰ」のいずれか1科目を選択必修。物理非選択者は「電磁気学入門」を必修。
化学	◎もしくは○	<p>・化学推奨科目選択希望者もしくは生物推奨科目選択希望者は「化学基礎論C」または「化学基礎論D」を修得しても卒業要件単位とはならないため注意すること。同様に、数学推奨科目選択希望者もしくは物理推奨科目選択希望者は「化学基礎論A」または「化学基礎論B」を修得しても卒業要件単位とはならないため注意すること。</p> <p>【途中で推奨科目を変更する場合】</p> <p>・「化学基礎論A」及び「化学基礎論B」の両方を修得した場合は「化学基礎論C」及び「化学基礎論D」の両方を修得したと同等とする。同様に、「化学基礎論C」及び「化学基礎論D」の両方を修得した場合も「化学基礎論A」及び「化学基礎論B」の両方を修得したと同等とする。</p> <p>「化学基礎論A」または「化学基礎論B」のいずれか1科目のみを修得した場合は「化学基礎論C」または「化学基礎論D」のいずれか1科目を修得したと同等にはならないので注意すること。</p>	
工 (環環)	化学	※	「化学基礎論A」、または「化学基礎論B」のいずれかを選択必修。

付録5 1年次 履修計画表

(春学期、夏学期)

	月	火	水	木	金	土
1限						
2限						
3限						
4限						
5限						
6限						

(秋学期、冬学期)

	月	火	水	木	金	土
1限						
2限						
3限						
4限						
5限						
6限						

## 付録6 1年次 春～夏学期 履修希望科目控

新入生履修希望(抽選)登録での作業時間は限られています。

事前に、余裕をもって本冊子の「3. 履修手続」、「付録1 卒業要件単位数一覧表」、「付録3 全学共通教育科目 科目一覧表」及び全学教育推進機構HPの新入生向けページ掲載の「時間割表」「シラバス」を確認の上、希望登録を行う科目について、希望順位を決定して以下に記入し、登録作業に備えてください。

### ■ 学問への扉【必修】

豊中開講: **全員登録が必要です。**

学部・学科ごとに指定された2つの曜日時限で開講されるクラスから、**希望するクラスを8位(上限)まで**、希望登録してください。

曜日 時限	希望順位	時間割 コード	科目名(サブタイトル)	担当教員	曜日 時限	希望順位	時間割 コード	科目名(サブタイトル)	担当教員
	1					5			
	2					6			
	3					7			
	4					8			

吹田開講: **希望者のみ**登録してください。

ただし、キャンパス間の移動があるため、前後の時限に豊中で開講されている科目を履修しない場合に限りです。

曜日 時限	希望順位	時間割 コード	科目名(サブタイトル)	担当教員	曜日 時限	希望順位	時間割 コード	科目名(サブタイトル)	担当教員
	1					5			
	2					6			
	3					7			
	4					8			

### ■ 健康・スポーツ教育科目【必修】

学部・学科ごとに指定された曜日時限で開講される授業科目すべてに希望順位を登録してください。

ただし、「スマート・スポーツリテラシー」もしくは、「スマート・ヘルスリテラシー」は春～夏学期、もしくは秋～冬学期に必ず履修しなければなりません。

曜日 時限	希望順位	時間割 コード	科目名	担当教員	曜日 時限	希望順位	時間割 コード	科目名	担当教員
	1					5			
	2					6			
	3					7			
	4					8			

### ■ 第1外国語(総合英語)【必修】 ※外国語学部 以外※

曜日 時限	希望順位	時間割 コード	科目名	担当教員	曜日 時限	希望順位	時間割 コード	科目名	担当教員
	1				同 左	6			
	2					7			
	3					8			
	4					9			
	5					10			

■ 第Ⅰ外国語(総合英語)【必修】 ※外国語学部 以外※ (続き)

曜日 時限	希望順位	時間割 コード	科目名	担当教員	曜日 時限	希望順位	時間割 コード	科目名	担当教員
	1				同 左	6			
	2					7			
	3					8			
	4					9			
	5					10			

■ 第Ⅰ外国語(総合英語Ⅰ、Ⅲ)【必修】 ※外国語学部※

一部の専攻においては、すでに上級クラスが履修登録されています。

曜日 時限	希望順位	時間割 コード	科目名	担当教員	曜日 時限	希望順位	時間割 コード	科目名	担当教員
	1					9			
	2					10			
	3					11			
	4					12			
	5					13			
	6					14			
	7					15			
	8					16			

■ グローバル理解【外国語学部以外必修】(ドイツ語・日本語選択者のみ希望登録要)

曜日 時限	希望順位	時間割 コード	科目名	担当教員	希望順位	時間割 コード	科目名	担当教員
	1				5			
	2				6			
	3				7			
	4				8			

■ 選択外国語【文学部、人間科学部のみ必修】

曜日 時限	希望順位	時間割 コード	科目名	担当教員	曜日 時限	希望順位	時間割 コード	科目名	担当教員
	1					5			
	2					6			
	3					7			
	4					8			

○ 専門基礎教育科目(選択必修・選択)

所属学科や学籍番号末尾で履修クラスが指定されている場合があります。シラバスや登録画面の備考欄等で確認してください。

曜日 時限	希望順位	時間割 コード	科目名	担当教員	曜日 時限	希望順位	時間割 コード	科目名	担当教員
	1					1			
	1					1			
	1					1			
	1					1			
	1					1			

○ 基盤教養教育科目(選択)

必修科目(科目表で「◎」の科目)については自動登録されます。

「人文」等の区分は、シラバス及び登録画面上開講科目名称で確認可能です。

曜日 時限	希望順位	時間割 コード	科目名	担当教員	曜日 時限	希望順位	時間割 コード	科目名	担当教員
	1					1			
	2					2			
	3					3			
曜日 時限	希望順位	時間割 コード	科目名	担当教員	曜日 時限	希望順位	時間割 コード	科目名	担当教員
	1					1			
	2					2			
	3					3			
曜日 時限	希望順位	時間割 コード	科目名	担当教員	曜日 時限	希望順位	時間割 コード	科目名	担当教員
	1					1			
	2					2			
	3					3			
曜日 時限	希望順位	時間割 コード	科目名	担当教員	曜日 時限	希望順位	時間割 コード	科目名	担当教員
	1					1			
	2					2			
	3					3			
曜日 時限	希望順位	時間割 コード	科目名	担当教員	曜日 時限	希望順位	時間割 コード	科目名	担当教員
	1					1			
	2					2			
	3					3			

下記授業科目については、受講すべきクラスが自動的に登録されます。

- ・情報教育科目
- ・第2外国語
- ・グローバル理解(ドイツ語・日本語以外)
- ・専門基礎教育科目(必修)

## 付録7 よくある質問

Q. 大学からの連絡や掲示はどのように確認することができますか？

A. 学生の皆さんへの連絡や通知は、原則としてKOAN掲示板、全学教育推進機構掲示板または各学部等の掲示板で行われます。一度掲示したものは周知されたものとして取り扱いますので、日頃から確認するよう心がけてください。

Q. 授業の講義室情報と場所はどうすればわかりますか？

A. 履修登録している授業科目ならばKOANの「履修登録・登録状況照会」で分かります。また、シラバスにも講義室情報を掲載しています(急な変更の場合、即時反映とならない場合があります。)

講義室の配置は全学教育推進機構HPを確認してください。

<https://www.celas.osaka-u.ac.jp/facilities/>

Q. 休講や補講はどのように確認することができますか？

A. KOANの休講・補講照会や授業掲示板にて、各自で確認してください。

※CLE(授業支援システム)を通じた連絡、授業中のアナウンスのみの場合もありますので、確認・聞き漏れのないようにしてください。

Q. 授業担当の教員には、どのように連絡を取ることができますか？

A. 授業担当の教員への質問等は、原則として授業中又は授業の前後に行ってください。

授業時間以外に連絡を取りたい場合は、次の方法があります。

①メール… KOAN上のシラバスでは、教員のメールアドレスを公開していることがあります。各科目のシラバス下段に記載されている「授業担当教員」欄を確認してください。

②電話… 各キャンパスの代表番号を通して教員の研究室に電話を掛けることができます。大阪大学ホームページ「研究者総覧」などで教員の所属学部・研究科の所在を確認し、以下の番号に電話してください。

豊中キャンパス	06-6850-6111
吹田キャンパス(医・歯)	06-6879-5111
吹田キャンパス(その他)	06-6877-5111
箕面キャンパス	072-730-5111

なお、全学教育推進機構教務係では、公開されていない教員の連絡先を開示すること、および電話・メール等による担当教員への取次ぎは行いませんので予めご了承ください。

※上記以外に、全学教育推進機構HPにQ&Aをまとめています。

<https://www.celas.osaka-u.ac.jp/students/help/faq/>



【全学共通教育科目に関する問い合わせ先】

全学教育推進機構教務係(管理・講義A棟2階)

窓口業務時間:平日8:30~16:30



全学共通教育科目

履修の手引